

Reversible (Process)

Réversible (Procédé)

Umkehrbarer (Process)

逆二シ得ヘキ

驛遞局認可

明治十八年三月廿五日發兌

東洋學藝雜誌

東洋學藝社



第四拾貳號



緒言

我邦人ノ理學ノ思想ニ乏シキハ識者ノ
常ニ憂フルトコロナリ故ニ之ヲ救ハンカ
爲ニ此雜誌ニ理學ニ關係アル文章ヲ
掲載シテ其性質及ヒ功用ヲ世ニ明ニ
センコトヲ力メタリ固ヨリ詰屈解シ難
キコトノミヲ討論スルニ非スト雖ト
モ世尙ホ或ハ此雜誌ノ讀ミ難キヲ困
シムモノナキニ非ス因テ更ニ其區域
ヲ廣メ文藝上ニ涉レル平易ナル文章
ヲモ其間ニ雜ヘ甘苦相半ナラシメ以
テ世人ノ望ニ負ク無キヲ期スト云爾

目錄

論說

○奇怪不思議ノ研究

箕作元八

○大學ヲ論ス

二見康時遺稿

○天草地質誌

富士谷孝雄

○日本傍聽筆記のはなし

源綱紀

○蝶類ノ種類ヲ定ムル法

石川千代松

雜報

○羅馬字會の景況外數件

雜錄

○北海道北見國網走ノ漆樹

宮部金吾

○故東京大學教授清水郁太郎君略傳

學會記事

套言譯語

テ世人ノ望ニ負ク無キヲ期スト云爾

套言譯語

東洋學藝雜誌第三卷第四十二號

明治十八年三月廿五日發兌

奇怪不思議ノ研究 箕作元八

昔ヨリ本邦ニテ梓巫神託幽靈狐憑幻妖等其他奇怪不思議ノ事ヲ唱フルコト頗ル多シト雖モ未タ嘗テ深ク之ヲ研究スル者アルヲ聞カス西洋ニテモ亦之ニ類シタル事少カラス然レモ識者ハ概ネ一モ二モナク之ヲ排斥シテ不問ニ舍キシカ近來ニ至リ往々之ヲ研究スル者出來リテ或ハ必スシモ其妄誕無稽ニ在サルコトヲ唱フル輩アルニ至レリ就中英

ヲ知ルニ足レリ
同會報告書ノ原本ハ不幸ニ未タ之ヲ得サレモ今米國ノ理學雜誌及ヒ英國ノ知識新聞ニ登錄シタルモノニ就キ其要領ヲ拔萃シテ左ニ掲ク
同會ノ研究委員ハ察心ソートリーディング(Thought-reading) 奪感メスメリズム(Mesmerism) 妖怪アツパリションズ(Apparitions) 鬼屋ハウンテッドハウス(Haunted House) 其外奇怪ニ涉ル事實ヲ研究セシカ就中察心ニ關スル報告ハ實ニ驚クニ堪ヘタリ察心トハ更ニ五官ノ助ニ依ラス他人ノ思想ヲ推察スルコトヲ云フ之ヲ研究スルニ當リ同會ニ於テハ少シニテモ五官使用ノ疑ヲ置ク可キコトアレハ捨テ之ヲ論セス又兆表ニ依テ之ヲ察スルハ隨分巧妙ナルコトヲ得ヘキモノナレハ察心者若シ其術ヲ施スコト某人ノノミ限ルコトアルハ之ヲ省キテ研究ノ數ニ算入セス今察心ノ特ニ著シキ一例ヲ擧グルニ英國デルビ州ノ僧クリーシート云フ人ニ年齢十一歳ヨリ十八歳ニ至ル女子五人アリテ何レモ壯健ニシテ病患等有コナシ然ルニ未女ヲ除クノ外皆不思議ナル察心ノ性ヲ備ヘタリ研究委員教授バレット氏シジウィツク氏夫妻及ヒ教授バルフォール、ステワルト氏共ニ其家

ニ就キ或ハ會員ノ家ニ於テ之ニ試験ヲ爲シタルカ其法ハ
先右ノ女子ヲ室外ニ出テシメ其間ニ一ヨリ百ニ至ル數字
ヲ記シタル牌子ノ内ヨリ何レニテモ一個ヲ定メ置キタル
後彼女子ヲ呼入ルレハ戸ノ傍ニ立チテ俯シテ暫時考ヘ五
官ノカヲ借ラスメ彼定メ置タル數字ヲ推察シ時トシテ室
外ニ在リナカラ能ク察シ得ルヲアリ尤モ毎回必ス確察シ
得ルニハアラサレモ其確察シタル度數ハ甚タ多クシテ決
シテ偶然ニ出テタルカ如クナラスト云ヘリ又數字ノ試験
ノ外左ノ如ク偶然定メタル名詞ヲ察シタルコトアリ

定メタルモノ	察シタルモノ
William Stubbs (男名)	William Stubbs
Sophia Shaw (女名)	Sophia Shaw
Timothy Taylor (男名)	Tom Taylor [初察] Timothy Taylor [再察]
Isaac Harding (男名)	Isaac Harding
Albert Singrove (男名)	Albert Singrove [初察] Albert Grove [再察]
Tom Thumb (男名)	Tom Thumb
Cindrella (女名)	Cindrella

Chester (地名)	Manchester [初察] Chester [再察]
Pipe (管)	Plate [初察] Paper [再察] (紙) Pipe [三察] (管)
Cork (コルク)	Fork (肉叉)
Cork-screw (コルク拔)	Cork-screw
Tongs (火箸)	Fire-iron [初察] (火鐵) Poker [再察] (火杖)

右ノ如キ成績ノ算用ニ依レハ牌子ノ試験六百十回ノ内初
察ニテ的中シタルコト百十八回則五、一七回ノ試験毎ニ一
回ノ正察ヲ得ルナリ又誤察トナリタルモノ、内ニモ一句
或ハ一字ノミ誤リタルモノアリ前表中 Pipe 及ヒ Tongs
ニ於ケル半察シタルモノ、如キハ大ニ注目スヘキ所ニ
或ハ此事實ヲ説明スルノ端緒トナルモ知ルヘカラス
前述ノ女子等ノ言ニ依レハ推察スル際常ニ二三ノ相類似
シタル意想一時ニ心頭ニ浮ヒ少シク考思シタル後其著シ
キモノヲ撰フナリト而シテ彼等察心ノ性ハ初ハ大ニ盛ニ
特ニ愉快ナルトキ或ヒハ其奇性ニ誇ル節等ハ推察ヲ違フ
コト甚タ稀ニシテ或時ハ十七回連續シテ的中セリト云フ然

ルニ此性ハ習慣ニ依テ増進スルコトナク反テ漸次ニ減少セ

同會報告書ニハ原圖及ヒ察シタル圖ノ真寫ヲ掲載スルコ

ルニ此性ハ習慣ニ依テ増進スルコトナク反テ漸次ニ減少セ
リト云ヘリ果ソ然ラハ此性ハ或ハ一時存在スル病理的ノ
事情ナルヤモ知ルヘカラサルナリ

前條ノ事實ハ尙ホ或ハ萬一ノ僥幸ニ出ルト云フ可ケレモ
之ヨリモ今一層驚ク可キコトアリ則チ五官ヲ用ヒスシテ他
人ノ心中ニ想像シタル畫像ヲ察シ得ルコトニシテ此試驗ニハ
ブライトン府ノ術者スミス氏ヲ會員某ノ家ノ一室内ニ於
テ耳目ヲ包縛シタルマ、机ニ對シテ坐セシメ其手近ニ紙
筆ヲ備ヘ置キ會員一名其傍ニ坐ヲ占メテ其舉動ニ注目シ
今一人ハ室外ニ在テ何ニテモ思付キタル圖畫ヲ記シ會員
中ニ精密家ノ聞アルブラツクバルン氏ヲ室外ニ呼出シテ
之ニ右ノ圖ヲ示スコト數秒時ニシテブラツクバルン氏ハ目ヲ
塞キテ室内ニ入リスミス氏ノ背後凡二尺許ノ所ニ立テ一
心ニ其見タル圖畫ヲ想像シ居レハ暫クシテスミス氏ハ筆
ヲ取リテ右ノ圖畫ヲ寫出セリ尤モ此際室内ノ人ハ皆靜坐
沈黙セリ特ニブラツクバルン氏ハ目ヲ塞キ或ハ布ニテ之
ヲ覆縛シ且毫モスミス氏ニ觸ルコトナカリシナリ

同會報告書ニハ原圖及ヒ察シタル圖ノ眞寫ヲ掲載スルコ
ト六十ペーシニ及ヘリ而シテ其内ニテ特ニ能ク察シタリト思
ハル、圖ノ成リシ時ハスミス氏ノ耳孔ヲパテニテ塞キ
耳目共ニ布ヲ以テ覆縛シ頭部全体ニ箱ヲ被ラセ其上ヲ更
ニ毛氈ヲ以テ包ミタレハ如何ニスルモ會員ヲ誑カスヘキ
術ナキニ似タリ
又會員ガスリー、ビルチャル兩氏カリバール府ノ二
少女ニ就キ最モ嚴密ニ注意シテ施シタル試驗ノ記録アリ
其内ヨリ面白キモノヲ舉クレハ左ノ如シ

原物

少女ノ云フ所

金ノ十字架

「夫ハ金ナリ 夫ハ十字架ナリ」

卵

「甚タ卵ニ似タリ」

ペン軸ノ上ニ指

「圓柱形ノ物ノ上ニ何か鐘ノ如キ物ヲ

冠ヲ被ラス

被ラセテアリ」

Q字

「Qナリ」

暗紅色ノ林檎

「夫ハ球形ナリ」夫ハ戸ノ取手ニ似タ
リ「夫ハ暗紅色アリ」夫ハ林檎ナリ」

原圖

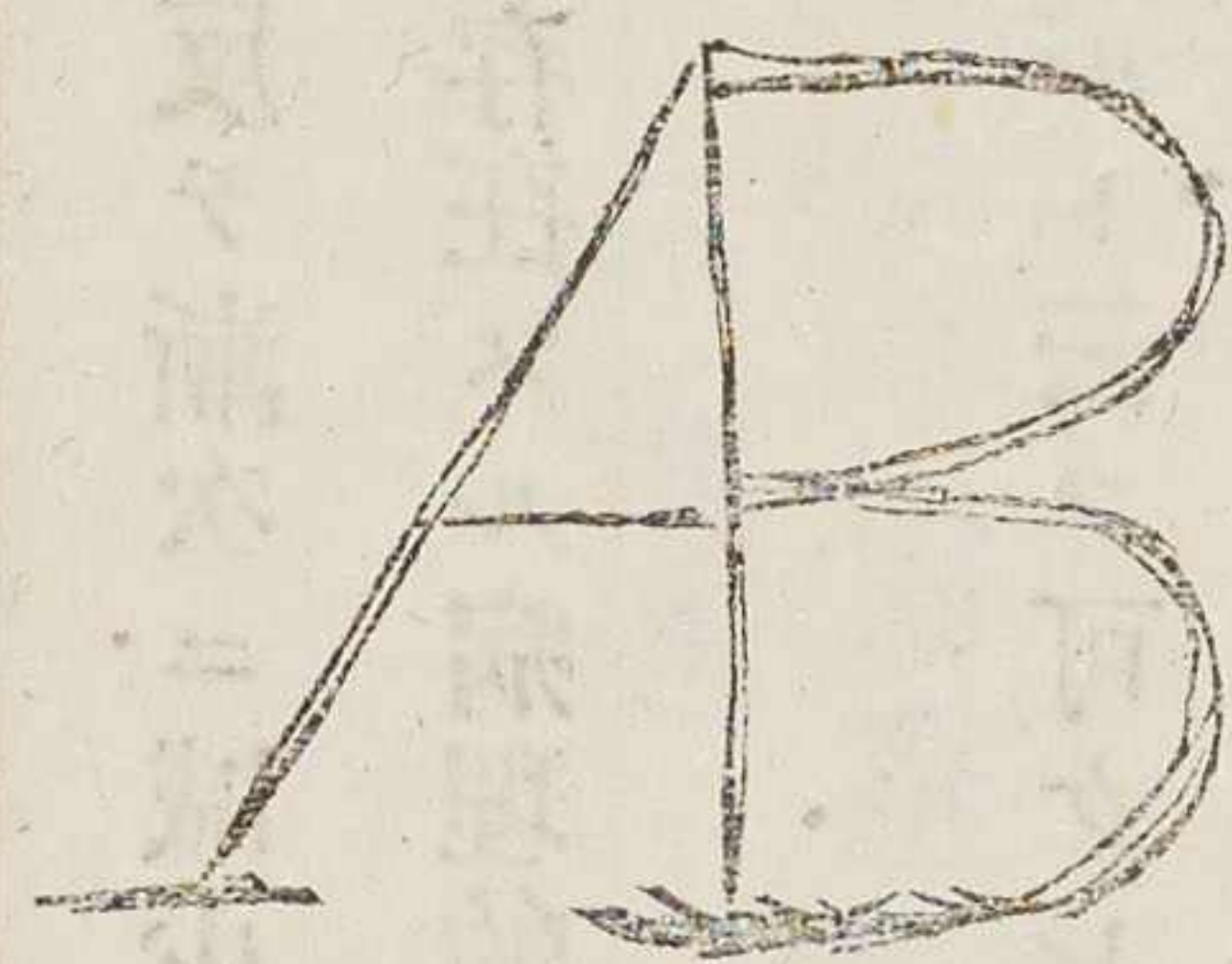


察圖



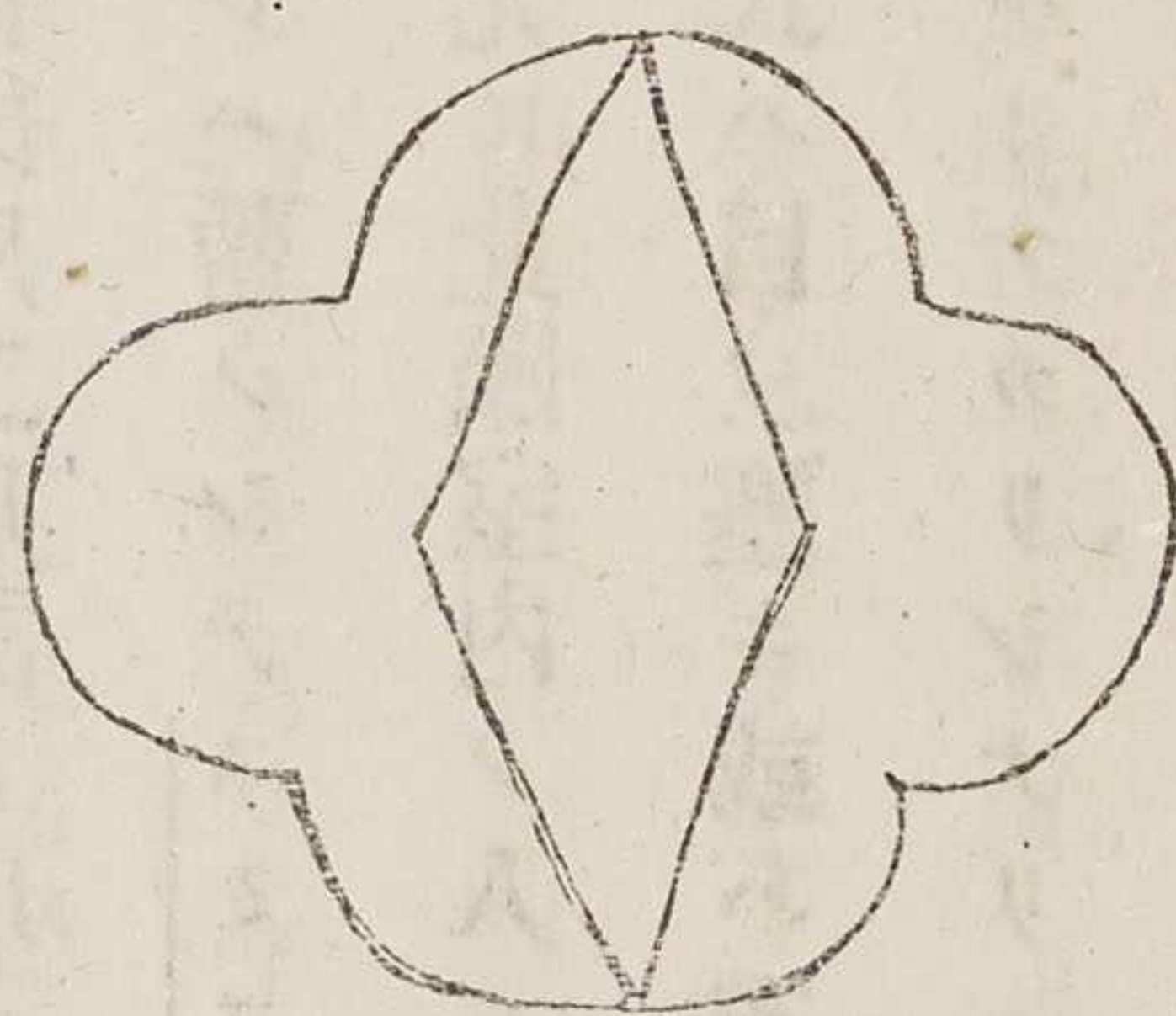
スミス氏ハ左ノ圖カ
幾何學上ノ圖ニアラ
ストハ心竹ザリシト
云ヘリ
又イ線ヲ引キタル後
何力之ニ平行スル線
アリトテ口線ヲ引キ
タリ

原圖



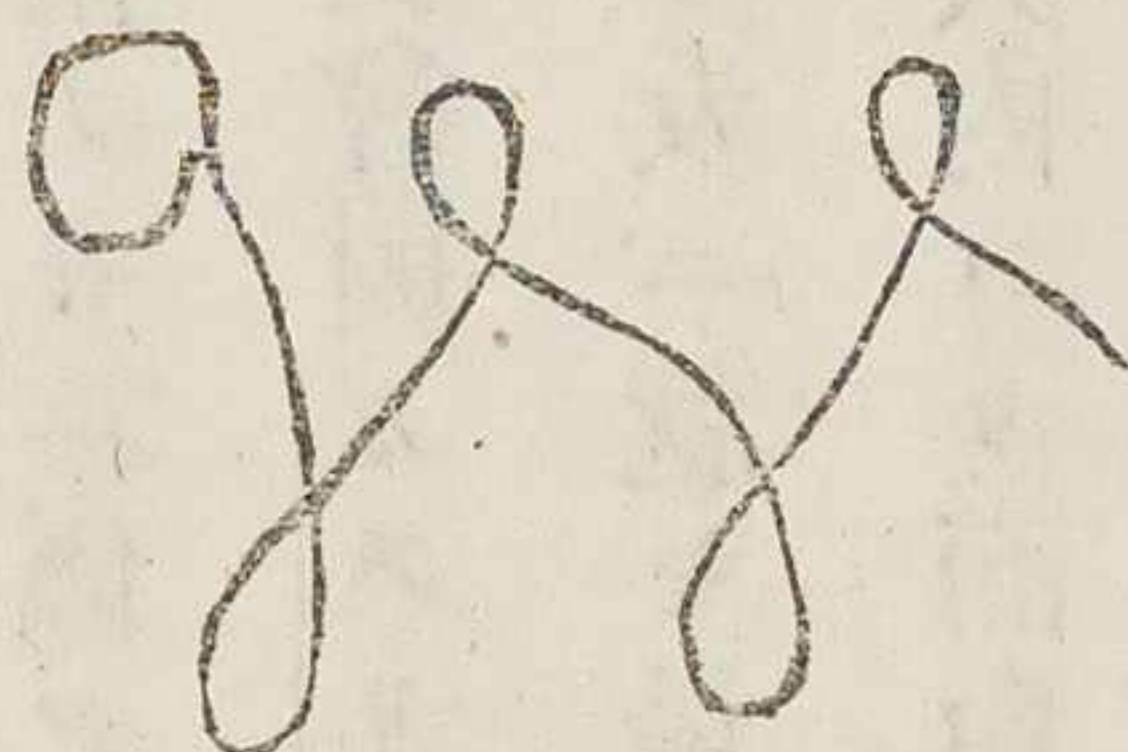
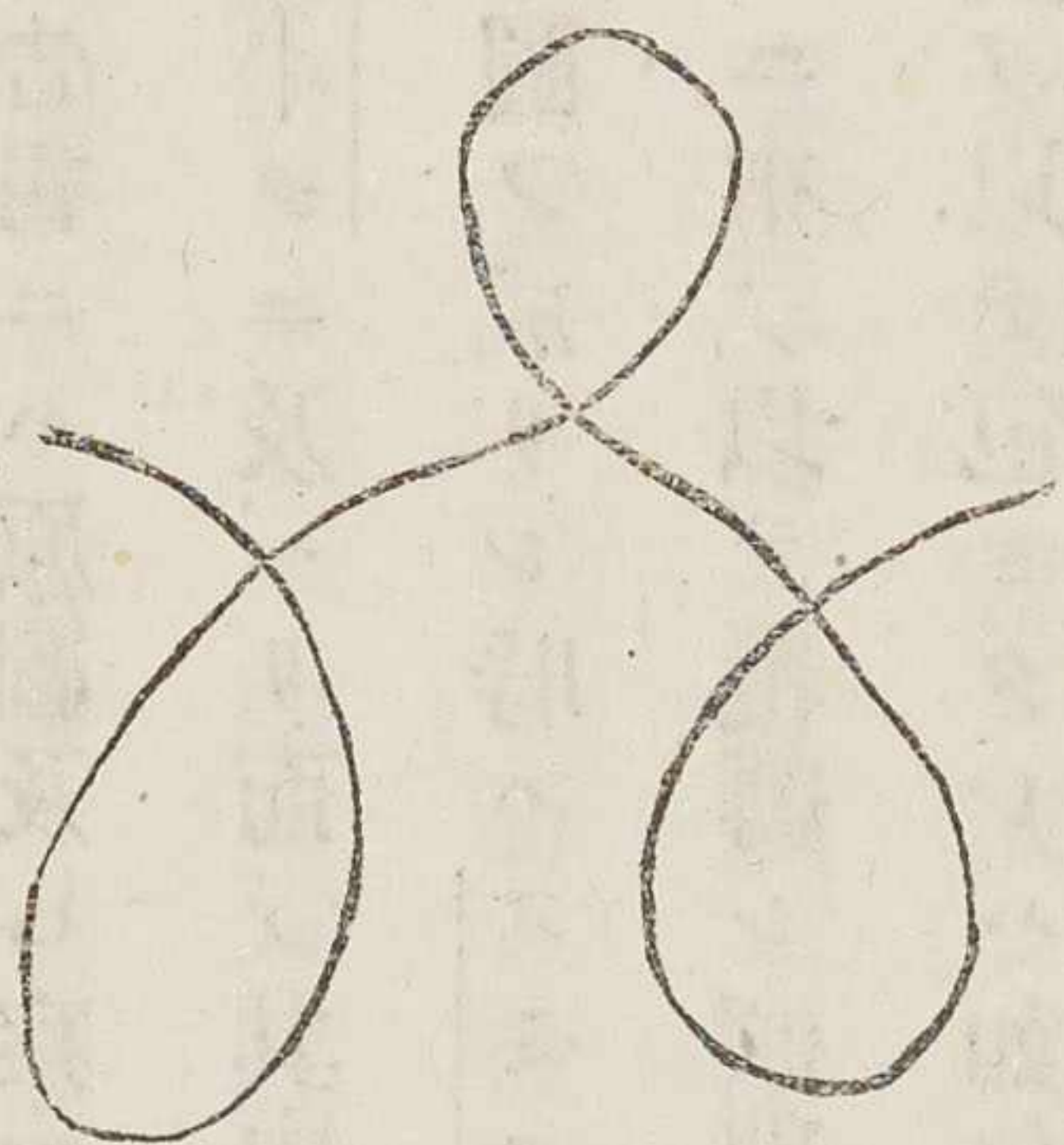
察圖

(三回試テ後
成レリ)

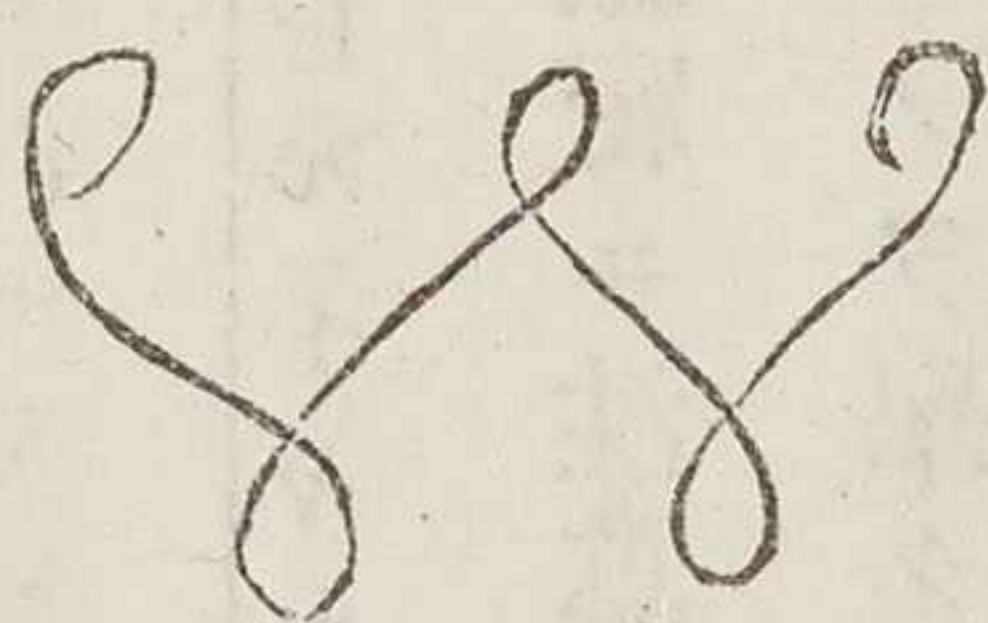


原圖

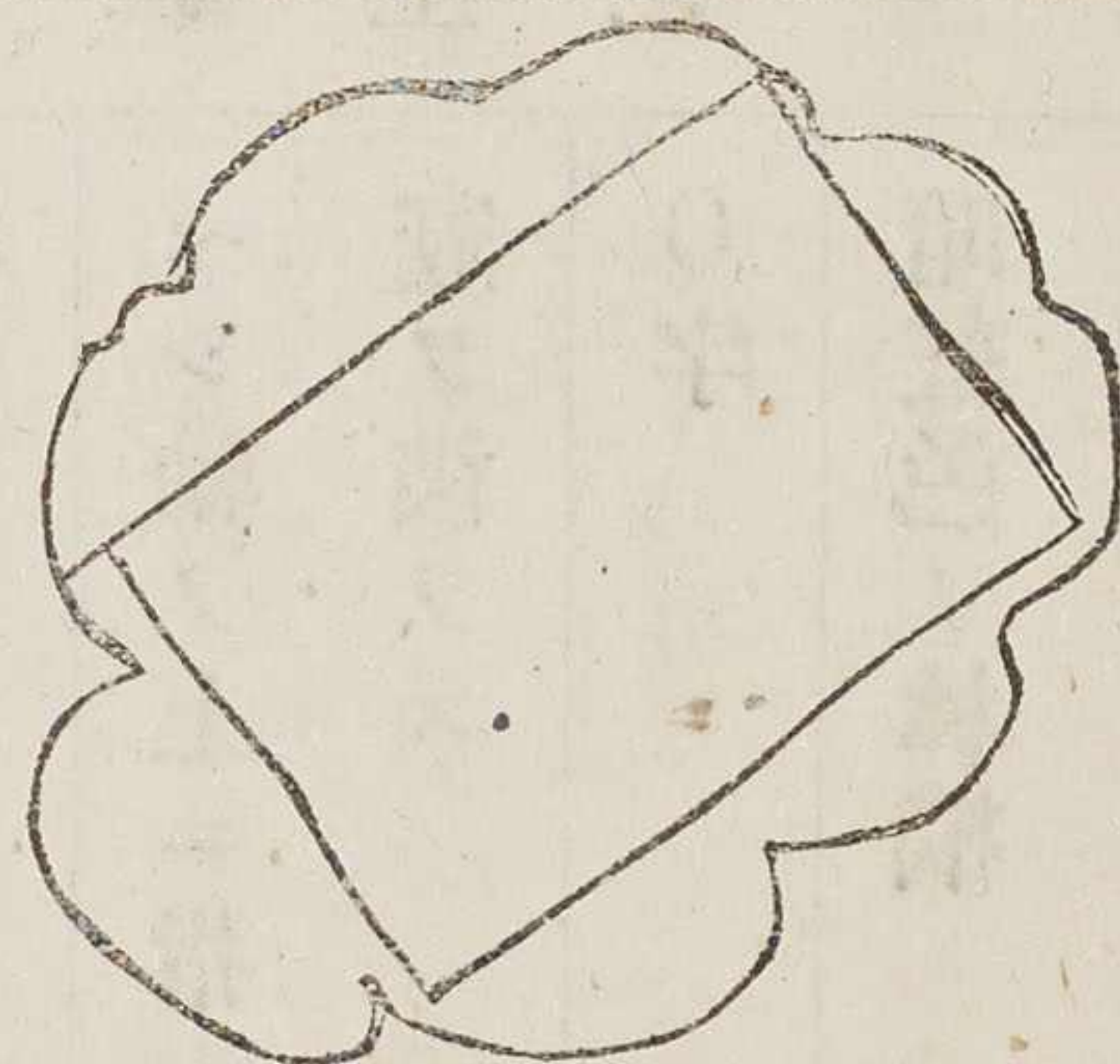
原圖



察圖

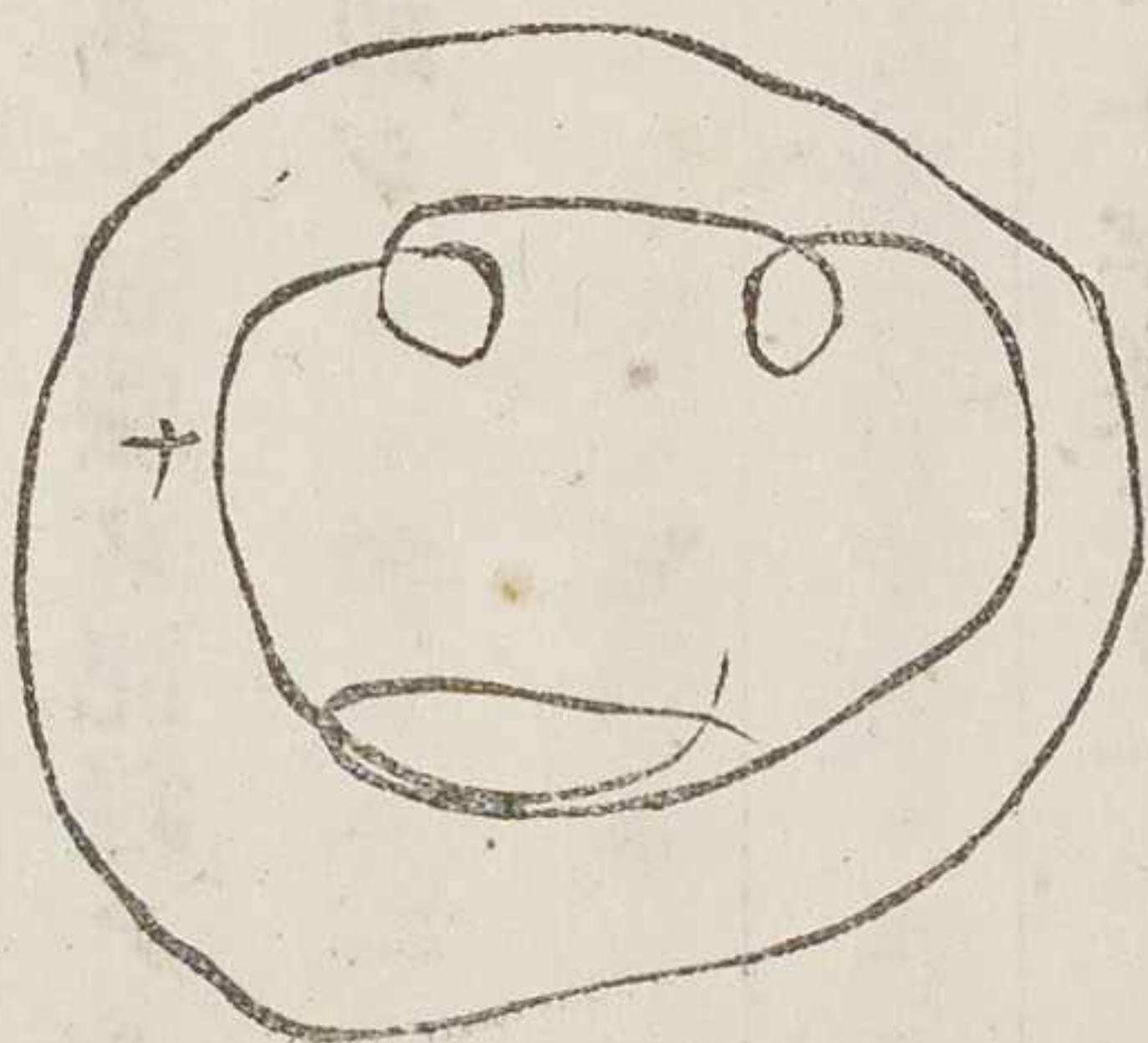
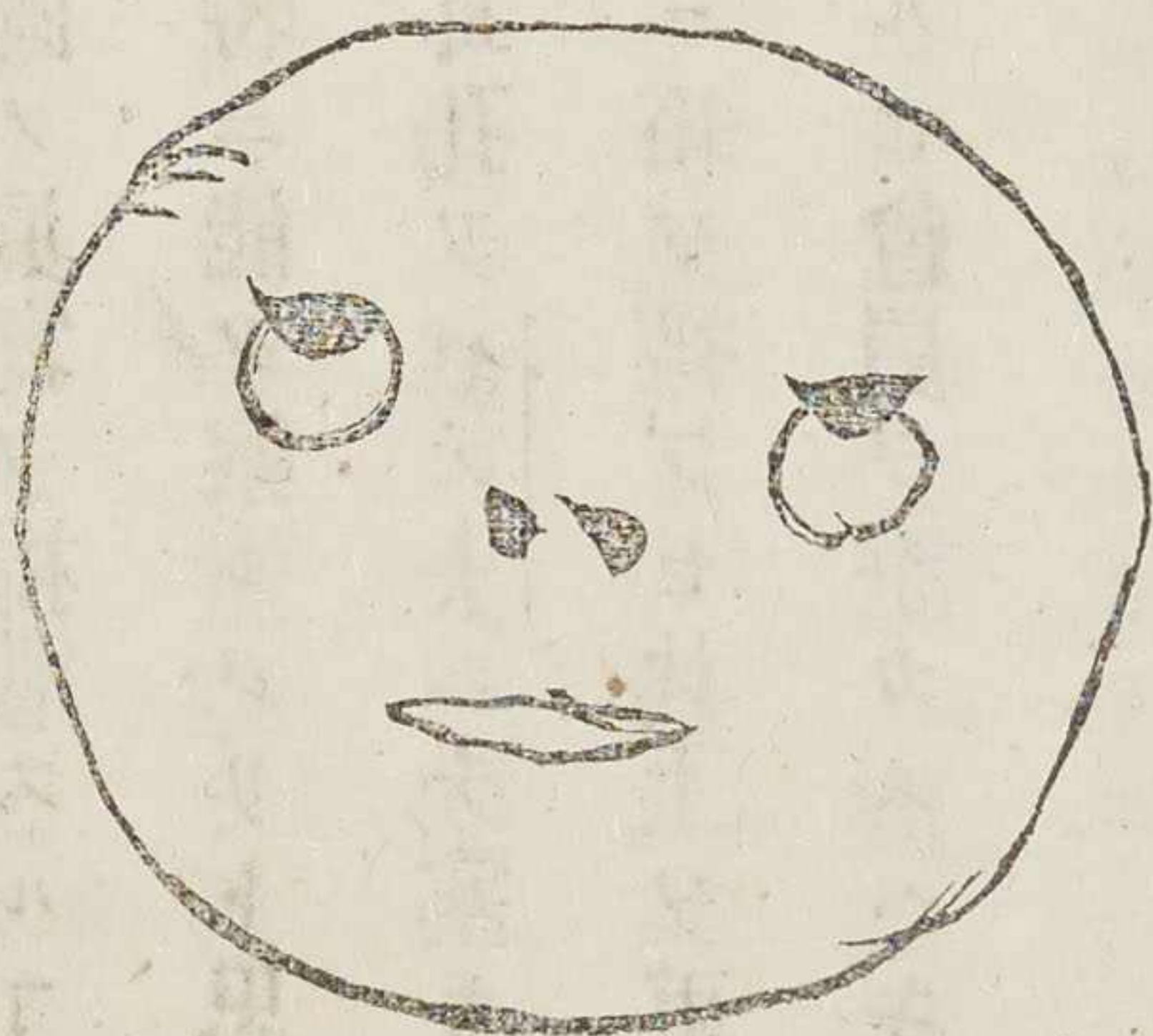


ブラツク
バルン氏
想像セル
圖



察圖

原圖



察圖

左ノ察圖中内ノ環
八十印ノ所ヨリ初
メ左ヨリ右ヘ一勢
ニ画キタリ

鍵

「小キ物ニテ一端ニ環アリ一端ニ玩物

モ更ニ痛苦ヲ感セサルカ如シト云ヘリ指ノ如ク鋭敏ナ

鍵

「小キ物ニテ一端ニ環アリ一端ニ玩物ノ旗ノ如キ物アリ」此時更ニ何物タルヤヲ問ヒタレハ則チ答テ「甚ダ鍵ノ如シ」

「夫ハ銀ニモヤ」「否夫ハ鋼鉄ナリ」「夫ハ直立セル鍵ナリ」

メスメリスムニ關シテモ亦會員ハ嚴密ナル試驗ヲ行ヒシカ下ニ掲クル所ノ試驗ノ如キハ三四十回モ之ヲ施シタレモ一回モ仕損シタルコトナカリシ其法ハ或一人ノ目ヲ布ニテ覆ヒ机ニ對シテ坐セシメ其兩手ヲ充分指ヲ廣ケテ机上ニ載セ而シ厚キ紙ヲ四重ニ折リテ其前面ニ屏風ノ如ク立テ充分ニ遮蔽シタル後會員ハ術者ニ向テ無言ニテ坐シタル人ノ某二指ヲ指示セハ術者ハ之ニ對シテ遙カニ摩擦ノ狀ヲ爲セリ此時或ハ空氣ノ動搖若クハ溫度ノ變化ニ依リ彼人ノ感覺上ニ一種ノ影響ヲ及ボスヤモ知ルヘカラサレハ之ヲ防カンカ爲メ會員ハ可成術者ト一樣ナル方法ニテ他ノ二指ニ向テ同ク摩擦ノ狀ヲ爲セリ然ルニ一二分時ノ後術者カ摩擦狀ヲ爲シタル二指ノミハ全ク感覺ヲ失ヒタルカ如ク之ニ深ク針ヲ突立テ或ハ点火シタル摺附木ヲ以テ觸ル

ハモ更ニ痛苦ヲ感セサルカ如シト云ヘリ指ノ如ク鋭敏ナル部分ニ於テ斯ル烈シキ刺戟ヲ受クルモ各種反射的機能ヲ制止シ得ルトハ實ニ吾人ノ意想外ニ出ルモノト云フ可シ而シテ會員ハ屢人ヲ易ヘテ試シ或時ハ極メテ柔弱ナル女子ニテ肉叉子ノ末端ニテ輕ク其指ヲ突クモ尙ホ非常ノ痛聲ヲ發スル者ヲ撰ヒテ此試驗ヲ行ヒタルニ其成績ハ前ト更ニ異ナルコトナカリシトソ術者カ其術ニ依リ人ヲ眠ラシメタル時ハ其指ノミナラス兩手全体モ感覺ヲ失ハシムルコトアリ而シテ例ニ依リ術者カ拍手呼起スルキハ其人忽チ醒覺スレモ其手ハ依然尙ホ机上ヲ離レズ恰カモ膠ニテ粘着セシカ如クシテ術者カ特ニ之ヲ解キタル後初メテ元ニ復セリ此外奇異ノ報告尙ホ有リト聞ケモ今此ヲ得サレハ掲載スルニ由ナシ而シテ從來一概ニ擯斥セシ者モ斯ク本會會員ノ有名ナルト研究ノ精密ナルトニ依リ漸ク此等ノ事ニ意ヲ注キ贊助スル者アリ駁撃スル者アリテ現ニ學者社會ノ論柄トハナリヌ然ルニ會員諸氏ハ尙ホ既ニ爲シタル所ヲ以テ満足スルコトナク今後益々用心ヲ密ニシ幾多ノ試驗ヲ施

シ確乎不可動ノ成績ヲ得ンコトヲ期セリト云ヘリ其公平勉強ナル實ニ感スルニ餘アリ

始ニモ云ヘル如ク我國ニハ此等奇怪ノ事極メテ多ケレ

或ハ之ヲ妄信シテ更ニ疑ヲ容レス或ハ不語怪力亂神、敬

鬼神而遠之ナド、理屈ヲ付ケテ不問ニ舍キ之ヲ研究スル

ノ勞ヲ取ル者ナク徒ニ面白キ事實ヲ曖昧ニ附シ置クハ遺

憾ト云フヘキナリ先ニハ我大學ノ井上圓了氏カ奇怪研究

ノ企アル由ヲ聞タレモ未タ公言セラレタルコトナケレハ如

何ナル成績ヲ得ラレシヤ知ルヘカラス又本年一月ノ官報

及ヒ諸新聞ニ醫學部ノ教師ヘルツ氏ノ狐憑ノ說ヲ掲ケタ

ルヲ見タリ此等ヲ本邦奇怪研究ノ第一着トモ云フ可キカ

都鄙ノ有志家宜シク奮發シテ能ク妄信妄疑ノ心ヲ去リ虛

心平氣ニ之ヲ研究セハ庶幾クハ學術上ニ宏大ナル利益ヲ

與フルコトアラン

○

大學ヲ論ス

二見康時君遺稿

左大學論一篇ハ二見君康時ノ遺稿ナリ君薩摩國喜入郷

ノ人夙ニ洋學ニ志サシ笈ヲ負ヒテ東京ニ來リ黽勉之ヲ

講習ス既ニシテ東京大學ニ入り哲學ヲ專攻ス客歲春不

幸ニシテ盲腸炎ニ罹リ醫學部醫院ニ入りテ治療セシモ

藥石效ナク七月二十四日終ニ起キサルニ至レリ大學論

ハ去三歲前其ノ大學ニアリテ草セシモノニテ井上哲次

郎氏之カ批點ヲ施コシ殊ニ嗟稱セラレシモノナリ今ヤ

敗紙ニ混シテ君カ名ト俱ニ卒ニ無聞ニ歸セントス吾等

平生ノ交誼之ヲ旁觀スルニ忍ヒス遂ニ東洋學藝雜誌ヲ

假リテ之ヲ世ニ公ニスルニ至レリ若シ夫レ論說ノ可否

ハ吾等ノ敢テ言フ所ニ非ス讀者唯其ノ微衷ヲ洞察セラ

ルレハ幸甚

明治十八年二月

友人

金井

延

松本源太郎

識

大學ハ往古支那ニ於テ大學生徒ニ授ケシ所ノ書ナリ朱熹

ノ說ニ經ハ孔子ノ意ニシテ曾子之ヲ述ヘ傳ハ曾子ノ意ニ

シテ其ノ門人之ヲ述フト云ヘリ然レモ陸深、李袁、羅汝芳

等ハ此說ヲ以テ不可トセリ故ニ果シテ何人ノ作ナルヤ斷

定シ難シト雖モ姑ラク孔子ノ意ニ出ツルモノト看做シテ

之ヲ論スヘシ然リ而シテ大學ハ初メ禮記中ノ一篇ナリシ

フ程子其ノ切要ノ篇タルヲ以テ之ヲ禮記ヨリ拔出シ後チ

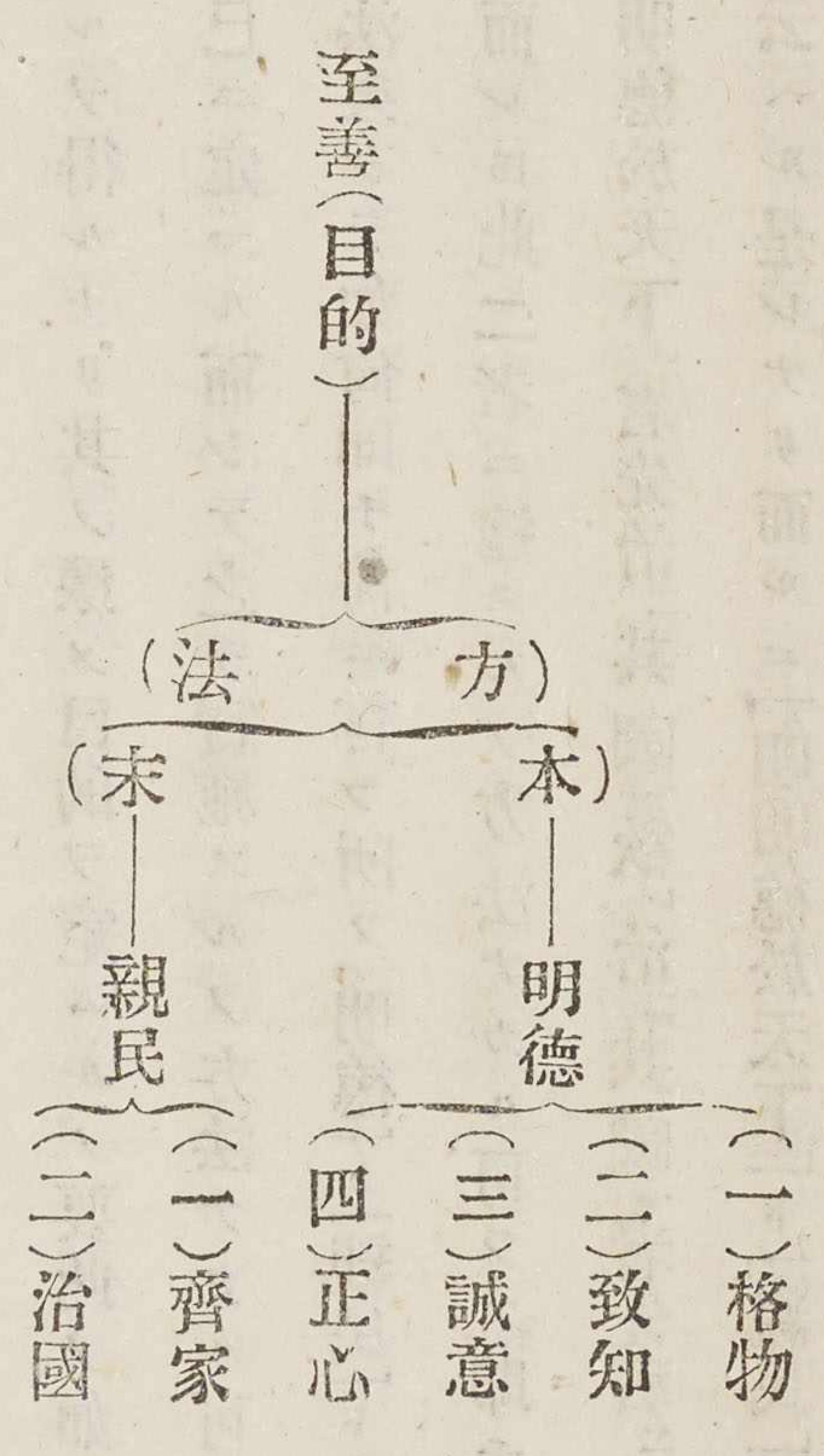
此ノ三綱中至善ヲ以テ主眼ト爲シ也ノ二綱ハ之ニ達スル

ヲ程子其ノ切要ノ篇タルヲ以テ之ヲ禮記ヨリ拔出シ後チ朱子之カ章句ヲ爲セシヨリ論孟中庸ト相與ニ四書ト稱シテ大ニ世ニ行ハル、ニ至レリ此書分テ經傳ノ二ト爲ス而シテ傳ハ專ラ他書ニ載スル所ノ語ヲ引來リ以テ經文ノ義ヲ證明スルニ過キス別ニ新說ヲ出タスニ非サルヲ以テ余ハ唯經文ノ意ヲ略解シ之カ評論ニ從事セントス

經文ノ首ニ大學之道在レ明ニ明德在レ親レ民在レ止ニ於至善ニノ語アリ是レ大學中ノ綱領ニシテ即チ大學ノ主義ナリ其意タル朱子ノ註ニ據ルニ人ノ世ニ出現スルヤ己ニ明德即チ性ナルモノアリ清淨精白ニシテ毫モ汚點アルコトナク自然ニ道理ヲ解シ以テ萬事ヲ處スルノ能アリ而レ亦情欲ナルモノアリ人毎ニ多少之レアラサルハナシ其ノ靈妙不可思議ノ性之カ蔽フ所ト爲リ其ノ美質ヲ顯ハスコト能ハス是レ恰モ日輪ノ雲霧ニ遮キラレテ其ノ光輝ヲ放ツコト能ハサルカ如シ故ニ道ニ志サス者ハ當サニ其ノ情欲ヲ制シ其ノ本性ヲ養ヒ己ニ自カラ研磨シ成レハ推シテ之ヲ他ニ及ホシ遂ニ天下ノ人ヲシテ同シク其ノ本性ニ復ラシメ彼我俱ニ至善ノ域ニ至リテ止マルヘシトノ謂ナルカ如シ故ニ

此ノ三綱中至善ヲ以テ主眼ト爲シ他ノ二綱ハ之ニ達スルノ方法ニ過キササルナリ今「止於至善」ヲ以テ主眼即チ目的ト爲スハ凡ソ事ヲ爲サントスルニハ先ツ其ノ向フ所ヲ定メサル可ラサルカ故ナリ之ヲ譬ヘハ船ノ如シ其ノ何レノ方向ヲ取り何レノ港口ニ航スルカヲ定メ而シテ後走ラサレハ暗礁崑石ニ衝突シテ人船兩ナカラ洋心ニ葬ムラサルモノ幾ト希ナリ故ニ「知レ止(目的)而后有レ定定而后能靜靜而后能安安而后能慮慮而后能得」ト云ヘリ是レ即チ目的的定テ而シテ後思想始テ其向フ所ヲ知ルノ意ナリ思想其ノ向フ所ヲ知ル故ニ心、外物ニ動カサレス心、外物ニ動カサレス故ニ心隨テ恬安ス心恬安シテ始テ事物ヲ熟慮スルノ暇アリ能ク事物ヲ熟慮スルニ至テ始テ至善ノ域ニ達スルヲ得ルナリ其ノ豫メ目的ヲ定ムルノ要此ノ如シ今日目的已ニ定マル而シテ之ヲ實施スルノ方法ナカル可ラス其方法果シテ如何即チ前ニ言フ所ノ「明德」ト「親民」ト是レナリ而レ此二者ニ達スルノ方法ナカル可ラス即チ「欲レ明ニ明德於天下」者先治ニ其國「欲レ治ニ其國」者先齊ニ其家「ト云ヘル是レナリ而ルニ「明明德於天下」ト「親民」トハ同一

ナルヲ以テ「親民」ノ方法ハ畢竟「治國」「齊家」ノ二者ニア
 リ而シテ又「欲齊其家」者先脩「其身」欲脩「其身」者先
 正「其心」欲正「其心」者先誠「其意」欲誠「其意」者先致
 其知「致知」知在「格物」ト云ヘリ「修身」ト云ヒ「明明德」ト
 云フモ均シク是レ本性ニ復ルノ意ヲ出テサルヲ以テ「明
 明德」ノ方法ハ「正心」「誠意」「致知」「格物」ノ四者ニアリ
 ト謂ハサルヲ得ス而ルニ「物有本末」事有「終始」ト云ヘ
 ハ「至善」ニ達スルノ方法ノ如キ亦「本末」ノ別ナカル可ラ
 ス即チ「明德」ハ本ナリ「親民」ハ末ナリ何ヲ以テ之ヲ知ル
 トナレハ「身脩而后家齊家齊而后國治國治而后天下平」ト
 云ヒ又「自天子以至庶人」壹是皆以「修身」爲「本」ト云
 ヘルカ故ナリ然リ而シテ「其本亂而未治者否矣」ト云ヘハ
 「本末」其ノ順序ヲ亂ルルハ到底其功ヲ成ス可能ハサルナ
 リ
 以上ハ經文ノ意ヲシテ前後貫徹セシメンコトヲ謀リシモ
 ノナリ今更ニ之ヲ明亮ナラシメンカ爲メ左ニ之ヲ圖解セ
 ン



經文ノ意ハ右ニ述フル所ヲ以テ概知スルヲ得ン今之ヲ通
 覽スルニ大ニ事實ト論法ニ反スルモノアリ請フ逐次之ヲ
 細論セン

第一怪ム可キハ此書ノ旨趣專ラ男子ノ爲メニ言ヒシモノ
 ニシテ女子ニ於テハ悉ク適用ス可カラサルカ如キ是レナ
 リ何トナレハ彼ノ「格物」「致知」「誠意」「正心」「修身」「齊
 家」「治國」「平天下」ノ八條目中「格物」ヨリ「修身」ニ至ル
 マテノ五條目ハ男女並ニ適用シ得可シトスルモ「齊家」
 「治國」「平天下」ノ三條目ニ至テハ女子ニ適用シ難キモノ
 ナリ女子ノ職タル原來家事ノ一分ヲ料理スルニ過キスシ
 テ家政ノ權ト雖モ專執スヘキモノニ非ス況ヤ家外ノ事務
 即チ社會ノ事ニ至テハ其ノ與カリ知ルヘキ所ニ非サルナ

リ然ラハ即チ女子ノ道德ハ「格物」乃至「修身」ニテ足レリ

ニ就テ觀察スレハ或ハ善ナリト思惟セラル、所ナキニ非

リ然ラハ即チ女子ノ道德ハ「格物」乃至「脩身」ニテ足レリト爲スカ將タ女子ニハ他ニ特別ノ道德アリト爲スカ寧ロ女子ハ道德ヲ要セスト爲スカ其ノ何レニアルカヲ解スルヲ能ハス是レ余カ怪ム可シト爲ス所以ナリ然レモ此等ニ至テハ瑣事ナリ此外事實ニ背キ論法ニ合ハサルモノアリ曰ク何ソヤ方法ヲ以テ目的ト爲シ人性ヲ以テ善ナルモノト假定シタルノ二事是ナリ前ニ述フルカ如ク人ニハ素ヨリ「明德」ナル者アリトセリ而シテ註ニモ「虛靈不昧以具ニ衆理ニ而應ニ萬事」者也」ト云ヘリ是レ人性ヲ以テ原來善ナルモノト假定臆測スルモノナリト謂ハサル可ラス何トナレハ第一其ノ善ナル證左ヲ明示セス且ツ方今泰西諸大家ノ主張スル理論ニ反スルモノアレハナリ即チ天地間ノ萬物ハ創造ノ時ヨリ現形ノ如キモノニ非ス其初ヤ單純混雜ナルモノニシテ地質氣候其他外物ノ變化ト俱ニ推移進歩シ幾萬億ノ星霜ヲ歷テ遂ニ今日ノ狀態ニ至リタルモノナリ其證ハ地質學ニ生物學ニ一々撮擧スルニ暇アラズ然リ而シテ吾人々類モ亦他ノ動植物ト同シク幾萬億年ノ進化ヲ歷テ今日ニ至リタルモノナレハ其性ノ如キ今日ノ狀態

ニ就テ觀察スレハ或ハ善ナリト思惟セラル、所ナキニ非スト雖モ其初ヤ未タ必スシモ善ナリト斷言ス可ラス加之現在諸方ノ野蠻人種ノ行爲ヲ觀ルニ其ノ情全ク開明人種ノ性情ト相反スルモノアリ而ルニ方今ノ野蠻人種ハ古代ノ開明人種ニ劣レリトノ說ハ何レノ點ヨリ之ヲ觀ルモ其ノ證左ナケレハ太古人ハ方今ノ開明人種ニ似ンヨリハ寧ロ野蠻人種ニ似タリシヤ必セリ然ラハ則チ其性タル開明人種ノ性ヨリ不善ナリシヤ亦疑フ可ヘキナシ野蠻人種ノ性ヲ以テ開明人種ノ性ヨリ善ナリトスルハ吾人ノ想像シ能ハサル所ナリ之ニ反シ太古人ノ性ヲ以テ今人ノ性ヨリ善ナリトセンカ則チ自家矛盾ヲ免カレサルヘシ何トナレハ經文ニ云フ所ノ性ナルモノハ朱子之ヲ解シテ靈妙ニシテ衆理ヲ具ヘ以テ萬事ニ應スルモノトセリ然ラハ則チ人文ノ如キモ太古人性未タ其ノ本然ノ美質ヲ失ハサル時ニ盛ニシテ後世人性情欲ノ爲メニ蔽ハレ事理ヲ判斷シ能ハサル時ニ衰フヘキ道理ナルニ事實全ク反對ノ點ニ出テタルハ何ソヤ是レ即チ性ノ如キモ均シク化醇セシモノナルハ證ナリ果シテ然ラハ經文ニ人ニハ素ヨリ明德アリト云

即チ社會ノ事ニ至テハ其ノ與カリ知ルヘキ所ニ非サルナ

フカ如キハ假定ノ説ト謂ハサルヲ得サルナリ但シ余ハ直ニ性ヲ以テ惡ナリト云フニ非ス性モ亦他物ト均シク變遷化醇シテ今日ノ状態ニ至リシモノナレハ其ノ太古ノ状態ハ如何ナリシカ今日ヨリ之ヲ斷言シ難シト云フノミ讀者幸ニ誤解スルコト勿レ

是レヨリ目的ノ點ニ移ラン經文ニ據レハ「止於至善」ヲ以テ人生ノ最大目的ト爲スカ如シ是レ目的ト方法トヲ混同セシモノナリ抑モ善トハ惡ニ對スル語ナリ惡アリテ始テ善アリ善アリテ始テ惡アルコトニ決シテ獨立スヘキモノニ非ス然ラハ則チ彼ノ「至善」ノ域トハ決シテ有ルコト能ハサルモノナリ善アレハ必ス惡アルカ故ナリ而ルニ經文ニハ自家ハ論ナク天下ノ人ヲシテ其ノ本性ニ復ラシメタル後始テ「至善」ノ域ニ達スルト云ヘリ然レモ善惡ト俱ニ去リ惡善ト俱ニ消ユレハ彼我悉ク本性ニ復ルルハ世ニ復タ善ト云ヒ惡ト云フモノアラサルナリ設シ又「至善」ノ域ヲ以テ能ク有ルモノトスルモ是レ人生ノ最大目的ニハ非ス唯其ノ最大目的ニ達スル方法ノ一部ニ過キササルナリ今善惡ヲ事實ニ徵スルニ如何ナルコトヲ善ト云ヒ如何ナルコトヲ

惡ト云フカ即チ吾人カ生命ヲ保護シ吾人カ幸福ヲ增長スルモノヲ善ト爲シ之ヲ傷損スルモノヲ惡ト爲スニ非スヤ譬ヘハ故ナク人ヲ擊ツテ以テ惡ト爲スハ何ソヤ是レ其ノ生命幸福ヲ傷損シ而シテ吾人社會ノ幸福ニ加フル所ナキヲ以テナリ之ニ反シ人ヲ愛スルヲ以テ善ト爲スハ何ソヤ是レ以テ其歡ヲ助ク可ク亦以テ我心ノ快ヲ生ス可ク推シテ以テ吾人社會ノ幸福ヲ增長ス可キヲ以テナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ善ハ吾人ノ最大目的ニ非スシテ之ニ達スルノ一方法タルニ過キササルヤ明ナリ然ラハ則チ吾人ノ最大目的ハ何ソヤ曰ク最大幸福是レナリ前ニ述フルカ如ク凡ソ吾人社會ノ幸福ヲ增長スルモノヲ善ト爲セハ善ハ則チ客ニシテ幸福ハ則チ主ナリ獨リ善ハ善ノ字ヲ廣ク解スレハ愛敬信等皆其中ニ含ムヘケレモ今之ヲ狹ク視テ云ナリノミナラス愛ト云ヒ敬ト云ヒ信ト云ヒ義ト云ヒ其他凡百ノ德義皆幸福ヲ得ルノ方法タラサルハナシ今夫レ農夫ノ晨夜星ヲ戴キテ出入スル者ハ何ソヤ是レ其糧食ヲ得自餘ヲ以テ錢ニ易ヘント欲スルナリト云フ者アラン然レモ其錢及ヒ糧食ヲ得ント欲スルハ何ソヤ是レ快樂ヲ得ンカ爲

メナリ而シテ快樂ハ固ヨリ幸福ノ一部ナリ又賈人ヲ見ヨ

蓋シ宇宙ノ森羅萬象皆故ナク成立スルモノニ非ス必ス成

惡ヲ事實ニ徴スルニ如何ナルコトヲ善ト云ヒ如何ナルコトヲ

錢及ヒ糧食ヲ得ント欲スルハ何ソヤ是レ快樂ヲ得ンカ爲

メナリ而シテ快樂ハ固ヨリ幸福ノ一部ナリ又賈人ヲ見ヨ
 其ノ火ヲ以テ晷ニ繼キ店頭ニ正坐シ巧言令色乞食ニダモ
 頓首スルヲ憚ラサルハ何ソヤ是レ利ヲ射ンカ爲メナリ利
 ヲ射テ何ヲカ爲ス是レ亦快樂ヲ得ンカ爲メナリ其他政事
 家ノ政談ニ於ケル學者ノ著書ニ於ケル代言人ノ辨護ニ於
 ケル等世間一切ノ事直接ニ間接ニ自家及ヒ社會ノ幸福ヲ
 增長スルカ爲メナラサルハナシ然ラハ則チ幸福ハ吾人社
 會ノ目的タルヤ明ナリ幸福已ニ目的タルハ幸福ノ最大ナ
 ルモ亦目的ノ最大ナルモノタルコト言ヲ待タサルナリ
 以上論スル所ヲ以テ至要ノ點ハ辨シ畢レリ今更ニ經文ノ
 言ニ就キ孔子ノ一身上及ヒ儒者ノ言行上ニ論及セントス
 經文ニ云ク「欲脩其身者(中略)欲誠其意者先致其知致知在
 格物」ト此言ニ據レハ身ヲ脩メント欲スル者ハ第一ニ物
 ニ格リ知ヲ致サ、ル可ラスト云フモノ、如シ然リ而シテ
 物ニ格リ知ヲ致ストハ何等ノ義ナリト云フニ朱子之ヲ解
 シテ「所謂致知在格物言欲致吾之知在即物而
 窮其理也蓋人心之靈莫不有知而天下之物莫不有理
 惟於理有未窮故其知有不盡也」ト云ヘリ其意タル

蓋シ宇宙ノ森羅萬象皆故ナク成立スルモノニ非ス必ス成
 立スヘキ原因アリテ然ルナリ故ニ知ヲ致サント欲スル者
 ハ先ツ此レ等ノ物ニ就キ其ノ成立スル所以ヲ考究シ其ノ
 本性ノ何タルヲ精求セサル可ラスト云フニアリ抑モ物
 ノ原因本性ヲ搜索スルハ皆是レ化學物理學等諸專門學ノ
 司トル所ナリ而ルニ孔子ハ嘗テ化學ヲ講シ物理學ヲ説キ
 シコアリヤ假令化學物理學等ノ專門學トシテ教エサルモ
 人事外ノ物ニ就キ其ノ原因本性ヲ教エシコアリヤ譬ヘハ
 孔子ハ嘗テ雪ハ雨滴ノ凝結セルモノニシテ雨滴ハ河海ノ
 水蒸發シテ天上ノ寒氣ノ爲メ其ノ本形ニ復シテ降ルモノ
 ナリ理ヲ教エシコアリヤ又空氣ハ主トシテ酸素二分窒素
 八分ヨリ成立スルモノナリトノ理ヲ教エシコアリヤ余未
 タ之ヲ聞カス否其ノ嘗テ之レナキヲ信スルナリ然ラハ則
 チ口ニハ物ニ格ラサル可ラスト説クト雖屈躬自ラ其理ヲ
 窮メサルコト今ノ小兒ニタモ如カサルハ其ノ言行甚ダ背馳
 スルニ非スヤ意フニ世ノ孔子ヲ聖人ト爲ス所以ノモノハ
 主トシテ其ノ言行相反セサルヲ以テノ故ニアラスヤ而ル
 ニ今ヤ其ノ言フ所行フ所相反スルモノ、如シ果シテ然ラ

ハ孔子ヲ以テ聖人ト稱スルコト或ハ其當ヲ得サルヲ疑フナ
 リ而シテ世ノ儒者ナルモノヲ見ルニ或ハ云フ孔子曰ク
 「致知在格物」ト大哉言ヤ西人今ヤ漸ク窮理ヲ知ルト雖モ
 孔子ハ既ニ數千年前ニ在テ之ヲ言ヘリトテ恰モ孔子ヲ以
 テ科學者ト爲シ西人ヲ以テ其ノ門弟ト思惟スルモノ、如
 シ然レモ前ニ述フルカ如ク孔子ハ其實毫モ科學ニ通セサ
 リシカ故ニ其語ヲ引テ之レヲ今日ニ稱スルハ却テ其ノ過
 失ヲ暴露スルモノニシテ所謂自家ノ刀ヲ以テ自カラ傷ク
 ルモノナリ又其ノ自カラ爲ス所ヲ觀ルニ唯孔子ノ糟粕ヲ
 嘗メ其ノ一教以テ萬事ヲ處スルニ足ルト思惟シ泰西日新
 ノ學ノ何物タルヲ知ラス之ヲ知ラサルモ之ヲ講スルヲ務
 メス却テ之ヲ嫌忌スルモノ比々皆是レナリ蓋シ若輩ハ孔
 子ノ忠臣タラント欲スルノ心事ニ出テシモノナルヘケレ
 モ余ヲ以テ之ヲ觀レハ却テ其ノ不忠タルヲ覺ユルナリ孔
 子ヲシテ今日ニ在ラシメンカ彼レ自教ノ充分ナラサルヲ
 認識シ泰西日新ノ學ヲ講スルヤ必セリ然ラハ則チ果シテ
 孔子ノ忠臣タラント欲セハ廣ク他教ヲ講シ以テ自教ノ缺
 ケタル所ヲ補ヒ之ヲシテ完全至美ノ教ヲラシメンコトヲ

勤ムルコソ其ノ本分タルヘキニ事ノ此ニ出テサルハ孔子
 ヲ視ルコト淺シト謂フ可シ

終ニ臨テ一言ヲ附スヘキコトアリ凡ソ事ハ偏頗ナキヲ要ス
 偏スレハ視ル所正シカラス視ル所正シカラサレハ斷定ス
 ル所確實ナラス其ノ結果タル儒教ノ洋學ヲ視ルカ如ク宗
 教ノ科學ヲ視ルカ如ク決シテ其當ヲ獲ルコト能ハサルナリ
 西哲云ク醜惡ノ蟾蜍尙ホ且寶珠アリト以テ鑑ト爲ス可シ

天草地質誌

富士谷孝雄 述

第一章 地勢論

- (一) 位置 (二) 沿革 (三) 島形 (四) 山脉
 - (五) 水勢 (六) 山林 (七) 氣候 (八) 人口
- (一) 位置 肥後ノ西隅北緯卅二度餘東經百三十一度餘
 ニ一群島アリ二箇ノ大島及ヒ十餘ノ小嶼ヲ以テ成ル之即
 チ肥後國天草郡ナリ
- 大島中肥後ニ近キヲ天草上島ト云ヒ其西ニアルヲ下島ト
 稱ス蓋シ餘ノ小島ハ地理ニ憑リテ上下兩島ニ配附ス
- (二) 沿革 島人ノ口碑ニ曰ク天草人ノ祖先ハ漢朝ノ敗

卒ニシテ下島、軍ノ補ニ漂着セシモノナリト但其漂着ノ

央ヲ貫キ一ハ東北シテ南岸ニ伏起ス

ケタル所ヲ補ヒ之ヲシテ完全至美ノ教ヲシメンコトヲ

(二) 沿革 島人ノ口碑ニ曰ク天草人ノ祖先ハ漢朝ノ敗

卒ニシテ下島、軍ノ浦ニ漂着セシモノナリト但其漂着ノ時代ハ甚タ不明ナリ其後敗卒ノ子孫漸ク繁殖シ或ハ本戸ニ住シ或ハ志岐、瀬戸村等ニ居レリ

豊太閤ノ時島嶼一度小西行長ノ手ニ屬シ後復加藤清正ノ旗下之ヲ領セリ之ヨリ幾許ノ沿革アリテ徳川氏之ヲ天領ト成ナセシカ明治ノ今日竟ニ大政府ニ歸シ今ハ即チ熊本縣ノ所轄ナリ

若シ夫該島沿革ノ詳細ヲ知ラント欲セハ宜シク上田斯丘氏(天草高濱之人)著天草島鏡ヲ繙讀スヘシ

(三) 島形 今回ノ稽查ハ主ニ下島ニ關スルヲ以テ其記述スル所亦該島ニ係ハルモノ多シ

下島ノ概形ハ橢圓ニシテ長軸南北ニ走り九里ニ達ス短軸東西ニアリテ僅々五里強ニ過サルナリ又海岸ノ地形凸凹多ク而シテ其凸凹ノ方向ハ東北或ハ南北ニ較著タリ

下島ノ面積ハ二十二方里ニシテ食場村ノ帽子岳島中ノ最高点タリ蓋シ其海面ヲ抜クト實ニ五百「メートル」トス

(四) 山脉 天草ハ固ヨリ洋中ノ一小島ニ過スト雖モ尙小島ニシテ判然二流ノ山脉アリ一ハ即チ南北シテ島ノ中

央ヲ貫キ一ハ東北シテ南岸ニ伏起ス

南北脉ヲ作スモノハ福連木及ヒ内田ノ連峯ニシテ本戸ノ諸山之カ右翼ヲ爲シ都呂呂村ノ丘阜左側ニ崎嶇タリ

東北脉ハ南岸ニ伏起スルモノナレハ此地方ノ山嶺皆此脉ニ屬スルナリ但南北脉ハ東北脉ヨリ高シ又曰ク兩脉ノ方向ハ本嶋ノ過半ヲ被覆スル中生紀岩層ノ傾斜方向ト同一ナリ

地學ノ原則ニ曰ク海岸若シ岩石傾斜ノ方向ト平行スルハ凸凹少ナキモ之ト直角ヲ爲ハ凸凹極メテ多シ今此原則ニ憑テ視ルニ天草海岸ノ東北及ヒ南北濱ニ凸凹多キト自然ト云フヘシ何ハ此等ノ海岸ハ岩石ノ傾斜方向ト直角ヲ作セハナリ

(五) 水勢 島ノ東西僅々五里ニ過ス又主要ノ山脉中央ニ南北シ諸川之カ爲ニ東西スルヲ以テ其短少ナル推知スルニ足レリ使若ナラス河水常ニ僅够ナリ

夫下島ノ水ニ乏シキハ獨リ川河ニ止マラス飲用水モ亦然リトス而シテ此欠乏ハ海濱ニ至リテ更ニ甚シ又島中稍ヤ善良ノ村落ト稱スヘキハ盡皆海濱ニアルヲ見レハ供水ノ

事ハ島人ノ決シテ忽ニスヘカラサル一問タリ
然ラハ則チ如何ニシテ可ナラン乎試ニ天草山林ノ景況ヲ
述ヘ前問ニ答ヘントス

(六) 山林 福連木或ハ宮地岳等ハ山間ノ村落ニシテ彼
有名ノ山林ニ接近スルヲ以テ敢テ川水或ハ飲水ノ欠乏ヲ
覺知セス然リ而シテ今此地方ト他ノ供水ニ苦ム地方ヲ比
考スルニ唯位置ニ高低アルノミニシテ地質ノ一点ニ至リ
テハ毫モ異ナルナシ

陳天草山林ノ景況ヲ熟察スルニ宮地岳官林ノ外他ニ一モ
山林ト稱スヘキヲ見ス蓋シ山林ノ欠乏ハ則チ水量ヲ減殺
スル一大原因ナリ故ニ山林ヲ涵養スレハ水量ヲ増加スル
コト影ノ物ニ從フカ如シ然ラハ則チ水量ヲ増加スルハ只山
林ヲ養生スルノミニシテ極メテ容易ナリト雖モ茲ニ又他
事故アリテ山林ノ養生ヲ妨障スルナリ乞左ニ其理由ヲ述
ヘン

福連木ハ山間ノ一小村ノミ住民多クハ薪炭ヲ燒テ以テ米
穀ヲ得ル者ナリ余昨年(明治十一年七月中)此地ニ到リ薪
炭ノ商況ヲ問フニ炭壹俵ノ價僅カニ金貳錢ノミ也蓋シ五

里ノ山川ヲ跋渉シ本戸ノ市場ニ於テ所得ノ價格ナリ然リ
而シテ十俵ノ炭ヲ燒シニハ三人ノ手間ヲ要スヘク三人ノ
手間ヲ要スルニハ須ク一日金廿四錢ヲ費サ、ルヘカラサ
ルナリ

又炭ノ賣却市ハ本戸ナルヲ以テ到底此所ニ運送セサルヲ
得ス而シテ一人一日ノ運送量ハ牛馬ヲ使用シテ僅カニ十
二三俵ニシテ其價ハ廿四五錢ノミ由是觀之所得ハ只所費
ヲ償フノミニシテ固ヨリ利益ナシ之ヲ商業ト云ハン乎將
タ又徒勞ト稱セン乎天草民林ノ景況概シテ如斯ナレハ焉
ソ純然タル林境ヲ獲ルノ理アラン乎故ニ島人ノ有様ハ二
重体ニシテ將タ無益ノ金員ヲ投シテ山林ヲ涵養スルカ又
終始供水ノ乏シキニ汲々タル乎何ハ供水ノ欠乏ハ則チ山
林ノ欠乏ニ原キ山林ノ欠乏ハ涵養ノ費用目前ノ損益相償
ハサルニ由レハナリ

或曰ク山林ノ境界ヲ擴張スレハ自然田園ノ範圍ヲ減シ爲
ニ人民ノ苦ヲ招クコト少ナカラサルヘシト余答テ曰ク天草
ハ之ヲ本洲ニ比スルニ人口稍ヤ稠密ナレモ今山林ノ境界
ヲ擴張シ爲ニ人民ノ苦ヲ招クコト一モ之アルナシ此理後段

ニ於テ明ナリ

三月

同六十二乃至六十八度

炭ノ商況ヲ問フニ炭壹俵ノ價僅カニ金貳錢ノミ也蓋シ五

ヲ擴張シ爲ニ人民ノ苦ヲ招ク一モ之アルナシ此理後段

ニ於テ明ナリ

天草山林樹ノ主タルモノハ麩櫛、黒松、赤松、杉等ニシテ

麩櫛ハ往昔鎗柄ニ使用セシヲ以テ本邦ニ名アリ

(七) 氣候、余ノ島中ニ在リシハ僅カニ數日間ニ過サル

ヲ以テ氣候ノコハ固ヨリ充分ニ論辨シ能ハサルモ沿海ノ

潮流等ニ基キ聊カ鄙見ヲ述フヘシ

夫黒潮ハ大平洋中ノ温流ニシテ該洋ノ中央ニ起リ西ニ向

テ奔流シ郎松及ヒバシノ東岸ヲ北折シテ台灣及ヒ都島

ノ間ヲ經ヘ又北東回シテ我九州ノ南岸ヲ撲ツナリ

夏日黒潮ノ一部ハ九州ノ西岸ヲ洗ヒ朝鮮海峽ヲ通過シテ

日本海ニ入ル

カプティンエ、アール、ブラン氏ノ觀測ニ由レハ黒潮ノ寒

暖左ノ如シ

津輕海峽

四月 華氏四十二度

六月 同五十乃至五十六度

佐多岬及ヒ伊豆大島間

一月 華氏六十五度

三月 同六十二乃至六十八度

四月 同七十度

五月 華氏七十乃至七十八度

七月 同八十二度

八月 同八十乃至八十四度

十月 同八十乃至八十五度

十二月 同六十四乃至七十二度

大嶋及ヒ神子元間

一月 華氏六十九度

二月 同六十度

三月 同六十四度

四月 同六十七度

五月 華氏七十乃至七十六度

六月 同七十六度

七月 同七十六乃至七十八度

八月 同八十二乃至八十四度

十月 同七十六乃至七十九度

十一月 同七十四度

以上ノ觀測ニ由テ觀レハ大島及ヒ佐多岬間ノ潮温ハ六十度乃至八十五度ニシテ平均即チ七十一度ナリ今此沿海地方ノ寒暖ハ平均五十七度トシテ可ナラン然ラハ海陸ノ寒暖ニ四度ノ差アリ故ニ黑潮ノ此地方ニ温勢ヲ附與スルコト明シ然リ而シテ黑潮若シ此地方ノ寒暖ヲ調和スルヲ得ハ九州地方即チ天草西南ノ氣候ヲシテ温和ナラシムルハ疑ナシ何ハ夏日黑潮ノ一部朝鮮海峽ヲ經テ日本海ニ入レハナリ故ニ天草西南ハ緯度ニ比シテ稍ヤ温暖ナリ使若ナラス島中ノ本草或ハ熱帶性ニ近キコト棕櫚ノ野生アルヲ見テ知ルヘキナリ

又曰ク島ノ南北大ヒニ其氣候ヲ異ニスヘシ何ハ二流ノ山脉島中ニ縱横シ西南岸ハ茫々タル日本海ニ瀕シ東北ハ一帯ノ潮水ヲ隔テ兩肥ノ高峯ニ對スレハナリ故ニ西南風ハ温濕ニシテ東北風ハ冷乾ナルヘシ

若シ夫雨量ノ多少ニ至リテハ卒然之ヲ判定シ難シト雖モ山林ノ有無ヨリ推論スレハ降雨極メテ不規律ナルハ疑ヒナシ

(八) 人口、天草ハ位置ノ邊陲ナルト土地ノ確確ナルニ

關セス人口極メテ稠密ナリ

下島ノ面積ハ前已ニ述フルカ如ク僅カニ廿二方里ニシテ人口九七、四六〇、ナリ之ヲ壹方里ニ算スレハ即チ四四三〇トス

又本洲ノ面積ハ一四五七一方里ニシテ人口二六九〇六六四七ナリ之ヲ壹方里ニ算スレハ即チ一八四六トス

由テ下島壹方里ノ人口ヲ本洲壹方里ノ人口ニ比スレハ多キコト殆ント二倍半ナリ

天草ハ位置邊陲土地確確加フルニ人口稠密ナルヲ以テ人生ノ困難一方ナラサルカ如クナルモ人種ノ配致其妙ヲ得テ幸ニ此困難ヲ免レタリ

夫レ下島ノ良村ハ盡ク海濱ニアリ又海濱ノ人民ハ農家少クシテ漁夫或ハ商工多シ以是土地ノ確確人口ノ稠密ニ關セス家ニ給シ人ニ足ル山林ノ境界ヲ擴メ水利ノ便ヲ謀ルモ何ノ害カ之アラン

日本傍聽筆記法のはなし 源 綱 紀

今私は傍聽筆記法の事に就て話を致すに普通の論理に

依り左の四段に分て簡短に話を致します

會とのいふ飲食會の外苟も某原案を討議し某の經濟と諮

依り左の四段に分て簡短に話を致します

第一 傍聽筆記法を學はざる可からざる所以

第二 傍聽筆記法と制定したるの經歷

第三 傍聽筆記法の目的

第四 傍聽筆記法實事に就ての便利

諸第一の傍聽筆記法を學はざる可からざる譯は今更事漸
しく申さずとももの事なから今と違ひて昔ハ府縣會と云ふ
ものもなく町村會と云ふものもなく演說討論など云ふ
事は勿論なく偶たまに政事向の話でもまたと云ふ事が其時の
お上様へ聞えるると忽ち其者は上を恐れぬ不埒な奴だと暗
い所へ拘引され事によると大事々々の「シヤップ」の臺迄も
飛はさるゝ者もありて實に怖ろしき世の中なりしよ打て
替て今の世は府に府會あり縣に縣會あり其他到る所とし
て何會何會と會の設け無きの所なく既に此程或活版製造
所よ就て聞く所に依れば近年に至りて會の字の活字が賣
れると實に夥たしき事なりと云へは是よても會合の昌
んなるは押して知るべし誠よきとくはいくイナゆくわ
いなる世界なりと謂ふ可し此會の中よて親睦會とか忘年

會とのいふ飲食會の外苟も某原案を討議し某の經濟と諮
詢する等の會合ふ其他演說に討論ふ學術の講義に其事柄
を世ふ公にするると否とに係らず其記録を要せざるものは
ありますまい其記録を爲すにハ必ず傍聽筆記法よ依らな
けれハなりませんまい其完全なる記録を要するには是非傍
聽筆記法を學ハねはなりませんまい

これから私ハ第二の日本傍聽筆記法を制定したる經歷を
お話しなまやうが私ハ數年前よりどうか我國の言語を
筆記する方法を考ひたいと色々工夫したれと下手の考
ひ休むふ似たりで宜ひ事も仕出かさる所明治四五年の
頃より米國の學士ロバートといふ人よ就て「アメリカン、
スタンダード、フホノグラフィ」(米國の傍聽筆記法)を學
ひたれとも西洋の言語と日本語との組立も順序も丸で
違つて居れば「アメリカ」の筆記法で日本語を筆記すると
ハ到底六ヶしき事なれとも何か善い法があるまいかと
「ボアン」氏の「ステノグラフィ」、「バイロム」氏のライン、
ライテング、「ヨーリング」氏のレデーブルシヨット、ヘン
ド「リンスレー」氏のタチグラフィ、「ストルヂ」氏のステ

「ノグラフィ」(獨逸筆記法)「エテノグラフィ」佛國筆記法等を見ても皆大同小異のみにて一も日本語を筆記するに便益なるものはありませんゆゑ大に苦心して十有餘年の後ち漸く一此方法を制定し日本傍聽筆記法と名けたるを追々有志者の傳聞する所となりて竟に明治十五年十月本會を設立するに至り始めて之を授業と試み其後屢々増補改良して名詞の格、働詞の法及び時限と簡單明瞭に記載するを得るの加點法と追加せました此法は歐米諸種の筆記法中未だ曾て之れ有らざる所の一種の重寶なる我日本傍聽筆記法中の特有物であります

第三の傍聽筆記法の目的は時事の報道を敏捷ならしめ又は我國言語の改良を謀り或は有益なる諸外國の學術と仕入るの資本となし其他百般の事柄數ふるふ違あらされとも先づ差當り我國古への言語は文章文章は言語と少しも變るとなかりしも中古漢學と云ふ大邪魔物が飛びだし來りたるを以て言語通りに書くは俗だとか何とか自分勝手な屁利屈を附けて種々様々な文の体裁を拵へたるも其頃は暇な奴等はかり澤山あるから宜いけれども今の此忙し

ひ世の中に漢學などといふ様な暇つぶしの學問はサラリと止めて言語文章ともに同一なる國と致したい先づ我國の言語文章一様ならざるの一例を掲げんに「あなたは傍聽筆記法をお學びなさいませうか」と云ふを文章に書く時之「貴君傍聽筆記法ヲ講習スルヤ否ヤ」とか何とかいやに堅つ困るまゝ書かねならぬ様な今日の有様なり此堅つ困しい四角四面な文字や言語は學者ばかり用ひて居れば宜ひければ我面白しの人こそよらせで誰へでも彼へでも珍文漢語を六暗矢鱈に用ひるが爲めに竟ふは判然と惘然、週旋と風船、困循古息とにんじんごぼうと間違る様なとにやります又今の議事録とか何會日記とか何學講義筆記とか云ふ者を見るに實際に傍聽したるととは凡て變て天晴博識の先生等のみお揃ひで權兵衛太郎兵衛どのなどいひ一人もわいてなさらぬ様小書ひてあると云ふは其筆記を拵る人の四角四面の漢字好の先生達が寄つてたかつて其れては文章の抑揚がないとか照應がないとか波瀾だかヲランダとか下らぬ事に暇を費やして拵る丈けありて「シテ其アノ其サウシテ其」と一分間に五六十も其と云ふ言

葉を云ふ人でも筆記て見はれ誠に立派に作文かしてある

不便利なるものに非ず外國の音と雖とも容易に記載する

は暇な奴等はかり澤山あるから宜いけれども今の此忙し

テ其アノ其サウシテ其」と一分間に五六十も其と云ふ言

葉を云ふ人ても筆記て見はれ誠に立派に作文かしてある
代りには往々事實と齟齬して居るとか多く是れと云ふも
全く是迄傍聽筆記法と云ふものあるよお氣か附れず學者
先生ハ五自分の我儘勝手に其述たる趣旨を取摘んで作文
をなさるからの事なり我傍聽筆記法の目的ハ漢學者と云
ふ字引先生等が文章かまづいとか文字か間違て居るとい
ふが聊か頓着せずしてたとへ一分間に其と云ふ字を百も
二百も云はふがそれか今の日本の人の言葉なればお粗末
ながらも其通り記載して摘發公布したならば遠の權兵衛
太郎兵衛先生でもイヤこれはたまらぬと漸々言語を改む
る様になり竟ふハ言語文章一樣になりゆくハ明々瞭々と
して火と見るよりも明かなりと云はゞソラ汝も漢學者の
コハイ口を遣ふと責らるゝならんか
第四の傍聽筆記法實事に就ての便利といふハ我國從來用
る所の和漢の文字其用する所極めて廣しと雖も其字畫多
く志て中々言語を直寫するに適するものに非されば我筆
記法の文字は直曲十二個の線にて如何なる音よても筆記
し得られぬとなければ不完全なる我國の假名文字の如き

不便利なるものに非ず外國の音と雖とも容易に記載する
事か出來ます又近頃洋學者先生達がれ集りなされて何て
もかでも外國の文字て書き和漢の文字は悉皆お止めはず
るといふ企かあるのと巨細の事は知らぬとも成程漢字
の様な小面倒臭き暇費ひの文字を學ふよりの私も早速贅
成致し度となから我國の婦女子迄も能く分る假名迄も廢
して外國の文字と教え又之を學ぶに六ヶ月にして綴字し
得るとのお説もある由なれとも婦女子迄も能く分る文字
を止めて外國の文字なる新物を教え様との事なれば我筆
記學的の文字を學はしむるに如すと申さなければならぬ
斯申したら定めし我田に水を筆記法と仰せあるかは知ら
ぬども我筆記學的の文字は前よも申す通りタツタ十二の
形ちて何の様な外國の音でも書けぬと云ふとはなく殊に
三四週間も勉強したならば一通りの綴字に差支なきも
ので其のみならず熟練するに従つて言語發音と共に同時
に記載するとの出來るといふ重寶なる文字なれば今更其
便利の功能は申さすとも宜くお解りならん
偕右四段にれ話したる事柄にて筆記法の大略ハお解りな

らんが若し果して彼等目的を達するにあらば筆記學者獨りこれと利するのみならず世人を益するに至らん然らば即ち筆記法は獨り會場に必用なるのみならず亦以て文明を進動するの具たるを言と俟さる所て御座いましやう

○

蝶類ノ種類ヲ定ムル法

石川千代松

余ハ固ヨリ淺學ナレハ此ノ如キ六ツケ敷論題ニ付キ彼此申ス可キニアラサレ近頃少々氣付キタル所アレハ暫ク茲ニ掲ケテ諸君ノ御笑ヲ請フ

蝶類ハ諸君カ知ラル、如ク卵ヨリ孳化シテ仔虫トナリ蛹トナリ遂ニ成虫トナルモノナリ故ニ蝶ノ種類ヲ定ムルニ當リ成虫ノミヲ以テ論スル時ハ大ナル過ヲ生スルコアリ當世生物學一般ノ進歩ト共ニ昆蟲學モ大ニ進歩シタルハ十年前ハ一疋ノ蝶ノ種類ヲ定ムルニハ只々其乾キタル成虫ノミヲ以テ足レリトナシタルニ當時ニアリテハ其仔虫ノ形狀食物外界等ノ摸樣ヲ能ク知ルニ非サレハ容易ニ種類ヲ定ムルコト難シ
他ノ動物ニ付キ考フルニタカノツメ、エボシカイ、ノ如キ

ハ甲壳虫(Crustacea)ノ類ナレ其成長シタルモノハ軟体動物ノ如ク介壳ヲ具フルヲ以テ軟体動物ノ類トナシ來レリ然ルニ一千八百三十六年ニタムソント云フ動物學者カエボシガイノ幼兒ハ甲壳虫ノ幼兒ニ能ク似タルコヲ發見シタルヨリ其軟体動物ニ非スシテ甲壳虫ナルコヲ知リタリ

ホヤハ昔人ハ軟体動物ト思ヒシカ其幼兒ノ形狀ヲ知リタル後ハ有脊髓動物ニ近キコヲ知ルヲ得タリ(ランカスタール先生ノ説ニ因レハホヤハ有脊髓動物ノ退化シタルモノナリト)

鳥ト爬虫(龜蛇ノ類)トハ其形狀ノ大ニ異ルヲ以テ昔時ハ其間ニ少シモ縁ナキモノトナセシニ其發生ノ摸樣等ヲ知リタル後ハ此ノ二類ノ甚々近クシテ同一ノ幹ヨリ來リタルコト明ナリ之レニ反シテ蛙、蟻、蠍ノ如キ兩生物ハ昔ハ爬虫類ノ内ニ置キタルモノナレ也今日ハ魚類ト縁ノ近キコヲ以テ彼ノ有名ナルハックスレー氏ハ有脊髓動物ヲ大別シテ Ichthyopsida(魚及ヒ水陸兩生物) Saurropsida(爬虫及鳥類) 及ヒ Mammalia(哺乳類)トナセリ

右ニ掲クルカ如クナルニ因リ蝶ノ種類ヲ定ムルニモ其仔

アリ Araschnia Levana, ノ如キモノ(三)仔、蛹、成ノ内ニ

他ノ動物ニ付キ考フルニタカノツメ、エボシカイ、ノ如キ

鳥類) 及ヒ Mammalia (哺乳類) トナセリ

右ニ掲クルカ如クナルニ因リ蝶ノ種類ヲ定ムルニモ其仔虫ノ形狀等ノ必用ナルコトヲ信シ過キ或ハ誤テ思考スルニ只タ仔虫ノ形狀ノミヲ以テ成虫ノ種ヲ確定シ得ルモノトスル人アリ即チ米國ニテ蝶學ニ有名ナルウイリアム、エドワルヅ氏ノ説ハ二疋ノ成虫アリテ互ニ一種ノ變種ノ様ニ見ユルモノモ其仔虫ノ形狀ノ異ル時ハ二種ノ蝶トナスニ足ルト云ハレタレ此レモ又タ甚タアブナキコトナリ

近年獨逸國ノ學士オーガスト、ゲワイズマン氏ハ多ク蝶類ヲ卵ヨリ成育シ余程面白キ結果ヲ得ラレタリ

氏ハ多クノ試験ノ後蝶ノ分類法ニ付キ述ヘラレタルニ (Studies in the Theory of Descent, by August Weismann, etc. London, 1882. Vol ii, p. 401) 蝶ノ成虫ト仔虫トノ變體ハ互ニ關係ヲ有セサルコトアリ即チ全ク異リタル成虫ニシテ其仔虫ノ同形ナルモノアリ又タ全ク異タル仔虫ヨリ同形ノ成虫ヲ得ルコトアリト即チ(一)或ル種類ハ仔、蛹、成ノ三期ニ於テ多クノ變化ヲ見サルモノアリ *Limnethis camilla*, *Pieris Brassicae*, *Sphinx Ligustri*, 及 *Fuchsia Jaco-baene* ノ如キモノ是ナリ(二)三期共非常ニ變形スルモノ

アリ *Araschnia Levana*, ノ如キモノ(三)仔、蛹、成ノ内二期ハ多ク變形シ一期ハ變形セサルモノアリ *Smerinthus Filiae* 及 *Lasiocampa Pini* ノ仔、成ハ多ク變形ヲ見ハセ且蛹ハ變形スルコト無シ *Vanessa Urticae* 及 *V. Polychloros* ノ仔、蛹ハ多ク變形スレ且成虫ハ變形スルコト少シ *Pieris Na* (四)仔、蛹、成ノ三期中二期ハ變形セスシテ只一期ノミ變形スルモノアリ *Saturnia Yamamai* (ヤマ、ヒ)ノ成虫ハ種々變スルモ其仔蛹ハ常ニ同シ *Macroglossa Stellatarum*, *M. Fuciformis*, *M. Bombyliformis*, *Chaeocampa Eipenor*, *O. Celerio*, *O. Nerii*, *Deilephila Galii*, *D. Livornica* 等ノ成蛹ハ變形スルコト無ケレ且仔虫ハ大ニ變スルモノナリ仔成ノ二期ハ變形セスシテ只コト蛹ノミ變形スルモノハ甚タ稀ナリ *Vanessa do* ノ一例アルノミ

右ノ如キカ故ニ蝶々ノ種類ヲ確定スルコトハ甚タ難シマシテ成蛹仔ノ三期中只一期ノミヲ見テ種類ヲ定ムルコトハ實ニ危キモノナリ

我日本産ノ蝶ニ付キ外國ノ動物學者ニシテ大ニ過リタル

モノアリキアゲハ蝶(Papilio machaon, L.)ノ成虫ハ春月及ヒ夏月ニ出ルモノアリテ其形狀ハ互ニ異レリ即チ三四月頃ニ出ツルモノハ前翅ノ兩端ノ間ノ長サハ二インチ半ヨリ二インチ四分ノ三位ニシテ其翅ノ彩色ハ薄黄ナリ然ルニ此ノ蝶ノ産ミタル卵ヨリ出ツル蝶ハ夏月七八月頃ニ出テ大ナル者ハ五インチニ達シ彩色ハ濃ニシテ美麗ナリ然ルニ英國ニテ有名ナルバットラル氏ノ如キハ此ノ二形ノ蝶ヲ誤テ二種トナシ春ノ者ヲ P. machaon ト云ヒ夏ノ者ヲ P. Hippocratus, Feld, ト信シケリ横濱在留ノ英國人プライヤル氏ハ既ニ此誤ヲ正シタレ也(Trans. Ent. Soc., London, 1882, p. 486) バットラル氏ハ反テプライヤルノ過ナリト信スルモノノ如シ(Papilio Vol. iii No. 3. 1883. p. 63.) 就中氏ハアゲハ蝶ノ大サニ就キ疑ヲ生シ二インチ半トハプライヤル氏カ四インチ半ヲ誤リタルモノニ非サレハ同氏カ三ト記ス可キ所ヲ二ト記シタルナラン二インチ半トハ余リ小ナリ杯言タレ也余カ實驗ニ因レハプライヤル氏ハ正シクシテバットラル氏コソ誤レリ (以下次號)

雜報

○羅馬字會 同會ハ去る一月十七日規則ヲ議定セシ以來入會する人陸續絶えず會員の數殆ど千名に達したり抑方今何會何社と稱し會社の起ると甚多しと雖も此會の如く後世に善良なる影響を及ぼすものは決して無かるべし日本の開化をして西洋の開化の域に進ましめんには有害無益なる漢字と廢除し之に代るに西洋流の横文字を以てし實學を講究するの道と容易ならしむるに如くものなり是れ甚視易き道理なれを入會者の日を逐て多きも亦宜なり既ニ貴顯の中にて伊藤參議井上參議吉田大輔箕作議宮曾我中將池田侍醫原田少將を始とし英佛獨米露伊諸外國公使之勿論有名の學士新聞記者豪商等入會したる人頗る多し又漢學者にハ此會ヲ加入せしむる人ハ無かるべしと考ふるものも有るべけれ共東京大學の内藤聡叟氏杯は既に入會せられたり氏が此會を賛成せらるゝ大意は左の如し(第一)漢字の曉り難くして煩雜なるを以て其煩勞を省き我言語を簡短に直寫せんが爲ふ簡便なる字を用ふること(第二)其用ふる所の字ハ最博く世界に通用者何れの國人にも行はるゝものと擇むこと但し漢字ハ東洋に限り假

名ハ日本に限れば其用ふる處狹隘なり故に通用の最博き

金拾圓 コルクウード 金七圓 菊池 安

人にも行へるものと擇むこと但し漢字ハ東洋に限り假

名ハ日本に限れば其用ふる處狹隘なり故に通用の最博き字を擇まんと尤緊要なりとす諸又既に同會に捐金したる人名を舉ぐれば

明治十八年三月廿五日發兌

金百三拾圓	外山 正一	金百五圓	松井 直吉
金百五圓	山川健次郎	金百五圓	岩谷立太郎
金百五圓	矢田部良吉	金百圓	高松 豊吉
金百圓	櫻井 錠二	金百圓	池田 謙齋
金百圓	箕作 佳吉	金百圓	小島 憲之
金百圓	富田鉄之助	金百圓	木下 廣次
金百圓	伊澤 修二	金百圓	高嶺 秀夫
金百圓	寺尾 壽	金百圓	穂積 陳重
金百圓	鳩山 和夫	金百圓	和田垣謙三
金百圓	後藤 牧太	金五拾圓	高橋 健三
金五拾圓	山岡 次郎	金貳拾圓	プランケット
金貳拾圓	大久保三郎	金貳拾圓	松村 任三
金拾弗	ノット	金拾圓	加藤 敬介
金拾圓	富士谷孝雄	金拾圓	隈本 有尙
金拾圓	谷田部梅吉	金拾圓	土方 寧

金拾圓	ユルクウード	金七圓	菊池 安
金七圓	三輪桓一郎	金六圓	巨智部忠承
金五圓	ブリックレー	金五圓	ヂュボイス
金五圓	コンドル	金五圓	グローバ
金五圓	ダイバルス	金五圓	ランシアレー
金五圓	ホール	金五圓	ラウダ
金五圓	アボット		

又同會にては現今書き方の取調中にて近日取調濟の上は之を印刷に附し會員に分つと云ふ且つ追々には邦語辭書學校用教科書等を出版すと云ふ會員中よハ専門學士多きことなれば教科書の如きは最良なるものを著述せらるゝならん左すれば本邦學校の程度と一層高尙ならしめんと疑ふべくもあらず又近々雑誌を出版し會員に分つといふことも聞及びたり我輩記者ハ偏に羅馬字會の萬歳を祈る

○東京大學學士生徒員數 明治十七年十二月末東京大學四學部及ひ豫備門學生生徒現員ハ左の表の如志と學藝志林に見へたり

法學部 本科生四十二人 別課生七十八人

小計百二十人

理學部 本科生六十五人 同研究生二人

小計六十七人

醫學部 本科生百九十二人 別課生五百十九人 製藥

學生六十六人 小計七百七十七人

文學部 本科生四十三人 同研究生一人 古典講習科

百十人 小計百五十四人

法理文學部撰科生四十八人 豫備門生徒七百十四人

以上總計一千八百八十八人

○理醫學講談會 同會は去る廿一日本年の第一會と東京大學理學部に開かれ久原躬弦氏及び寺尾壽氏のいと面白き演説ありたり以後毎月第一日曜日午後第三土曜日夕開會にて六月第一日曜日を夏期休業前の納會とすと聽聞は無料なり

○博士來遊の噂 米國ハルバルド大學校總理エリオット氏及び同校教授に志て有名なる動物學士アガシー氏は今春我邦へ來遊するとの噂あり

○油難船を防ぐ 海面に油と流し浪を靜めて水底にある

魚の景況を窺ふは我邦漁夫の普く爲す所なるか同し理を用ひて難船を防きたりと云ふは昨年二月の比とか一漁船トーマスメルビル號は劇風の爲め其針路を失ひ波浪は甲板に打ち上げ既に危急の場合に立至りしか窮して策出るの諺に違はず油の效能如何を試むと凡そ一ガロン程を入るべき帆木綿の袋二個に油を充し針を以て所々に穴を開け之を船の艦より下げ去に浪は稍靜りて最早甲板に上る事なく遂に難船を免れたりと云ふ又近頃英國にてシルヅ及びゴールドンと云へる二人ハ此理を研究せんとの金錢時日を費して種々の試験を爲したりと云ふ就中フルクストンと云へる港の入口に起る浪を靜めんと水底に二本の長き鉛管を敷き之より百フット毎に一本の枝管を直立せしめ陸よりポンプを以て油を長管に注ぎ込み之より直立管を経て水と混ぜしむる都合になして試みるに其邊白浪など起らず小船を出して試みるに其動搖ハ烈けしかりしも決して浪の船中よ入る杯の事はなかりしと云ふ此外右兩氏は同し理に據りて難船を救ふ爲め種々の妙工夫を考へ出したりと云ふ

○女子大學校 此度米國ペンシルバニヤ州ブリンモール

利を興へたり近頃右英譯の初部上梓となり英語而已を知

○油難船を防ぐ 海面に油と流し浪を静めて水底にある

の妙工夫を考へ出したりと云ふ

○女子大學校 此度米國ペンシルバニア州プリンモール
と云へる處に女子の爲め一の大學校を開く由此はニュー

ジエルシ州の醫師ジョーセフ、ダブリュー、テール氏

の寄附金八十萬弗を資金となし最も高等なる學科を女子
に教へんとするものにして一千八百七十九年比より計畫

ありしか諸事略整頓したると見へ愈來る六月より開校す

る由其教則等は彼の有名なるシヨンスホプキンス大學校

に相似たりと云ふテール氏ハクウェーケル宗の人なり

シヨンスホプキンス大學校を設立したるシヨンスホプキ

ンス氏モ亦同宗なり氏は同大學校に三百五十萬弗を寄附

したる而已ならずシヨンスホプキンス病院を起す爲め全

しく三百五十萬弗を寄附したり我邦人もクウェーケル宗

に化したらんにハ或は此の如き金満家ともなり又之を惜

けなく公衆の爲に投する人も出んか嗚呼

○新版書 此迄 Claus Grundzüge der Zoologie ハ最も有

用なる動物書なりしか唯惜むらくは圖書なきを以て非常

に讀者を苦免しか先年 Lehrbuch der Zoologie とて右と大

同小異ふして圖書を挿入れたるもの發兌になり大ひに便

利を與へたり近頃右英譯の初部上梓となり英語而已を知

る者にも Claus 氏の著を用ひると得るに至れり實に動物

學上屈竟の書なり又近頃ニコルソンの新版出版になり

たり此迄の物に比すれば余程の改増補ある由パツカルド

氏動物書も稍略したるも此出版になりたり

○中央學術雜誌 今度題號の如き雜誌を東京專門學校内

同攻會にて編輯し團々社支店より發行する由にて三月十

日發兌の第一號を弊社にも投せられたり印刷極て鮮明に

して經濟學、法律學、社會學等に關する論說翻譯等を載せ

たり

○物理學套言譯語 東京大學工部大學等の物理學に關す

る教員諸君ハ一昨年來物理學譯語會を開き非常の勉強を

以て既に千有餘の套言(物理學上套言の過半)を和譯せら

れたり完備の上ハ英佛獨和四箇國の對譯辭書を編するの

目的なりと

○海濱生物實驗場 今回東京大學ふては相州三浦郡三崎

に水産物研究の爲め生物實驗場と立設せらるると云ふ

○磁石の極

ナツウル抄譯

グラスゴウの博士「トムソン」氏の觀測に従へば現今磁石の極は「ボチア、フェリキス」島の近傍凡そ地球の極を距る西方一千里に在り千六百五十七年には磁石極と地極と合一し夫れより千八百十六年に至るの間は漸く西方へ偏し今は復た東方に偏せり蓋し千九百七十六年に至れば復た正北を指すに至るべしと

○毛髮の成長 毛髮の氣候に關して成長の度を異にするとい既に人の普く知る所にて夏日は冬日に比すれば成長速なり然れども熱國に在ては其成長の度果して如何なるやは未だ何等の事も聞かさりしか近頃有名なる魯國の遊歴家フルセワルススキ氏中央亞細亞の「ハマイ」砂漠を旅行したりしと熱氣甚しく日光に曝露せる地の温度は攝氏六十二度に達し蔭影の地と雖も三十五度を降らす午後八時にも猶三十二度の温にて晝間の暑の堪へ難きハ勿論夜に至るも絶て涼風の來るなく蒸熱に苦みしが不審議も同行人は皆毛髮鬚髯の成長すると著しく速なるに驚けり殊に奇怪なるは此處へ來りし「コーザク」は猶童顔の少年なりしと忽ち髭を生したりと

○亞硫酸の特功 博士「ア、イルフイシク」氏は硝酸の傷を治するに亞硫酸の特功あるをを知り之れを同志に報告せり同氏は近頃硝酸の試験に於て顔部に傷を負ひしとき冷水又アムモニヤ及びカリの如き強き鹽基を用ひたるも其痛み止まざりしを以て亞硫酸の稀溶液を用ひたるも其痛止み傷も亦速に治したり蓋し是れ亞硫酸の還原的作用を以て硝酸の酸化的作用を妨くるによるならん

○高雄山ノ蝶類 東京大學ノ石川千代松氏ハ蝶類採集ノ爲メ昨十七年六月八日ニ武州高雄山ヨリ山上ヲ越テ小佛峠ニ出テ同日午前十時頃ヨリ午後二時頃迄僅カ四時間位ニ左ノ數種ヲ得タリト云ヘハ同地ハ蝶類ヲ採集スルニハ充分宜シキ場處ト思ハル

NYMPHALIDÆ.

SATYRINÆ.

YPTHIMA argus, Butl.

NYMPHALINÆ.

LIMNETIS sibilis, Linn.

NEPTIS intermedia, Pryer.

VANESSA pryeri, O. Janson.

ARGYNNIS nerippe, Feld.

LYCAENIDÆ.

LYCAENA japonica, Murray.

argus, Linn. var. (?)

THECLA arata, Brem.

PAPILIONIDÆ.

PIERIDÆ.

PARNASSUS citrinarius, Motsch.

COLIAS shimoda, De l'Orza.

ANTHOCHARIS scolymus, Butl.

PAPILIONINÆ.

PAPILIO maackii, Mem.

macilentus, O. Jans.

HESPERIDÆ.

PAMPHILA varia, Mur.

DAIMIO tethys, Men.

りしも忽ち露を生じたりと

NEPTIS intermedia, Pryer.

蛾ノ類ハ茲ニ掲ケス

右數種ノ内 *Lycæna argus*, Linn. ハ七疋ヲ得ラレタレ
皆雄虫ニシテ雌虫ハ一疋モアラサリシト此ノ雄虫ハ皆通
常ノモノヨリモ大ニシテ且ツ翅ノ上面ハ藍色(通常ノモ
ノハ空碧色或ハ紫色ナリ)ヲ帶ルヲ以テ同氏ハ恐クハ場
所ノ變種(Local variety.)ナラント云ヘリ

Anthocharis scolymus, Butl. ハ東京近傍ニテハ四月中旬
ヨリ五月中旬迄ニ出ツル蝶ニシテ五月中旬ヲ過クレハ見
サルモノナレバ六月ニ此ノ山上ニアルコトハ面白シ

Parnassus citrinarius, Motsch. ハ高山ニ屬スル虫ニシテ
北海道札幌邊ニテハ平地ニ在リト雖ヘ此ノ近邊ニテハ
常ニ日光山其外高山ニノミアルモノナレト同氏ハ此蝶ヲ
駒木野ニテ得ラレタリト云フ

○蠶蛆 *Ugimia sericaria*, Rond. ハ佐々木忠二郎氏カ先頃
大ニ研究セラレタル虫ニテ蠶ニ寄生スル虫ナリ然ルニ石
川千代松氏ハ *Laurion remota*, Walk. ノ仔虫ニ多ク此ノ
蛆ノ寄生スルモノヲ見ラレタリ此ノ蛾ハエキノキヲ食ス
ルモノナリ昨十七年六月中ニ同氏カ集メラレタル蛾ノ仔

虫ハ三十五疋ニシテ其内ヨリ出タル蛆ノ數八十疋ナリシト云ヘハ充分大ナル比例ナリ

○燐素「ガラス」アカデミード、シヤンス 近頃佛國の理學學士會に於てシドー氏は

燐酸石灰を以て製造したる「ガラス」を會員の參觀に供せり氏は數年前より種々研究を遂げ之を以て最良の管、瓶「レトルト」を製造せり是等の器は「フロール」ノ化合物を取扱ふに格別適當せりと云ふ如何となれば燐酸石灰ハ「フロール」の作用を受けざればなり又ヘンリ、ド、パルヴェル氏は火葬に關て此品の奇妙なる用方を預言せり、そハ死人の灰を通常瓶に入れて仕舞置くとなるが骨灰は重き燐酸石灰なれば之を「ガラス」となし死人の肖像等を製するとなり

○太陽及び星の光線は空氣を經過して地ふ達する迄に大抵其二割程吸收さるゝものなりと學者中是迄思來るとなるカラングレー氏が近頃海水平面及び千五百丈の高さの所よ於て試験せられし結果に依れば従前の數は大よ謬りありて光線(熱線も同じく)吸收の平均量は是迄の數の殆んど二倍なりと就中細微の塵は豫想したるより大なる吸

收力と有するものなりと云へり(ボヒユラル、サイエンス、マンツリー)

雜錄

北海道北見國網走ノ漆樹 宮部金吾

昨明治十七年七月中植物採集ノ爲メ根室縣下ヲ巡廻セシ北見國網走ノ旅亭ニ於テ漆樹ニ違ハザル材ヲ用井テ其室内ヲ裝飾シタルヲ一見セシユエ大ヒニ之レヲ訝リ該材ノ產地ト其名稱トヲ亭主ニ質問セシニ之レハ全ク眞ノ漆樹ニシテ今猶網走近傍ノ所々ニ自生セルモノナリト云フ又此地ノ移住民等ガ該樹ノ野生アルヲ發見セシハ今ヨリ僅ニ三年前ノ事ナル由ナレバ彼等ヨリ此樹ノ奈何シテ斯ル北端ノ地ニ移植サレシヤヲ識ランニハ到底望ムベカラサルコトナリ

茲ニ斜里ノ土人ニテ該地方諸般ノ事ヲ熟知スル水野清次郎ト云フモノ幸ヒ網走ニ來寓ノコトヲ聞シユエ右漆樹ノ由來ヲ問ハンタメ面晤セシニ其年齡凡五十有余ニシテ人品賤カラス言語應對等毫モ和人ニ異ナルコトナク一見通常ノ土人ニアラザルコト了然タリ彼ハ平素魚漁ヲ以テ業トナシ

和人數名ヲ使役スト云フ此土人ノ告クル所ニ依レハ彼ノ

願布ニ係カリシカヲ識別スルニ由ナキニ至ラン乎因テ茲

んど二倍なりと就中細微の塵は豫想したるより大なる吸

土人ニアラザルコト了然タリ彼ハ平素魚漁ヲ以テ業トナシ

和人數名ヲ使役スト云フ此土人ノ告クル所ニ依レハ彼ノ
 未タ壯年ナリシトキ幕府ノ臣宮崎三左衛門（松浦弘翁云
 宮崎氏ハ幕
 府ノ同心ニシテ江（ト云ヘル人網走ニ來住セリ氏深ク土
 戸巢鴨ニ住メリ）
 人ヲ愛シ土人ノ常ニ漆器ヲ珍重シ之ヲ得ンガ爲メ往々奸
 商ニ欺カル、コアルヲ慙ミ内地ヨリ漆樹ヲ此地ニ移栽シ
 其製方ヲ土人ニ傳習セントテ嘉永卯年（嘉永ニ卯年ナシ
 安政ニ改元セシ
 フ知ラサルナラン松浦翁ノ云ハルルニハ宮崎氏ノ網走ヘ
 赴任セラレシハ安政三辰年ニ即チ今ヨリ三十年前ナリ
 其時翁ニモ同地（會津邊ヨリ苗木ヲ取寄セ初メハ番屋ノ
 迄同伴サレリト）
 裏ナル小山ニ試植セシ處口風害ノタメニ枯ル、モノ多カ
 リケレハ再び此所ヨリ程近キクルマトマナイト云フ山澤
 へ移セシニ其地形ノ適セシナルカ皆能ク成長シテ遂ニ實
 フ結ブニ至レリト又彼ノ土人ノ云フ所ニテハ鳥大ヒニ其
 實ヲ好ミテ食フ爲メニカ種子所々ニ散布シ今日ニ至リテ
 ハ其近傍ニ多ク該樹ノ繁殖スルヲ見ルニ至レリト
 右土人ノ談話ニ依リテ始メテ該樹ノ内地ヨリ移植ニ係ル
 モノナルコトヲ了知セシハ學術上ノ大幸ト云ヘシ若シ此人
 ニ遭逢セスシテ今ヨリ數十年ヲ經過セシナラハ北見ノ漆
 樹モ彼ノ膽振ノ赤松日高ノ白桐ノ如ク其自然或ハ人爲ノ

頒布ニ係カリシカヲ識別スルニ由ナキニ至ラン乎因テ茲
 ニ之レヲ概記シテ他日ノ參看ニ供ス
 該樹ノ内最大ナルモノハ幹ノ直徑凡尺ニ至ル余昨年七
 月二十日ニ採集シタル標品ハ未タ開花セザリシト雖モ
 蒼將ニ綻ヒントスルノ期ナリシ
 漆製造ニ着手シテ幾分ノ成功アリシヤ否ハ之レヲ聞カ
 ザリシガ今尙樹皮ニ錐鑿ノ痕跡アルヲ見レハ多少製造
 フ試ミシコアリシハ必然ナリ

○
 清水郁太郎君畧傳
 君ハ備後國福山藩臣清水宗七ノ男ナリ幼ニシテ伯父鍼醫
 清水宗橘ニ養レテ其嗣子トナル君天性温厚敏捷學ヲ好ム
 初メ漢學ヲ紳商近藤一次ニ受ケ尋テ藩學校誠之館ニ入り
 漢學英學ヲ修ム早ク已ニ頭角ヲ顯ス明治四年正月館ノ生
 徒中ヨリ擢ラレテ醫學生トナリ藩費ヲ以テ東京ニ來リ先
 ツ大學少博士司馬盈之ニ就キ獨逸書ヲ學ヒ次テ大學南校
 ニ入り益其學ヲ修ム五年九月更ニ撰ハレテ大學官費生ト
 ナリ幾ハクモナクシテ大學東校ニ轉シ始テ醫學ニ從事ス

是ニ於テ勵精刻苦學業大ニ進ミ常ニ優等ノ譽アリ十二年某月大學醫學部全科ヲ卒ハリ醫學士ノ稱ヲ領ス蓋シ文部省ノ大學卒業ノ士ニ學士ノ稱ヲ賜フ君等ヲ以テ嚆矢トス全年九月文部省ノ撰ヲ受ケ官費ヲ以テ獨逸國ニ留學シ專ラ婦人科ヲ修メ十六年一月業成リテ歸朝ス全年三月文部省准奏任御用掛ニ補シ東京大學講師ヲ囑セラル翌年某月東京大學教授ニ任シ正七位ニ叙ス君其職ニ在ルヤ獨リ丁寧懇切能ク生徒ヲ薰陶スルノミナラス大學中別ニ婦人科ノ一院ヲ設クルカ如キハ君與リテ力アリ尙將ニ大ニ爲ス所アラントス而シテ不幸短命十八年一月疾ニ罹リテ豆州熱海温泉ニ療養ス而シテ起ツ能ハス終ニ二月廿六日ヲ以テ旅亭ニ歿ス人皆驚歎シテ之レヲ惜マサルハ莫シ

學會記事

○地學會記事 本年一月十七日地質調査所ニ於テ開筵セリ會員坂市太郎君ハ中山道鐵道線路ト同地方ノ地質ノ關係ヲ演シ又會員西山正君ハ讚岐小豆島地質ノ概略ヲ述フ出席會員十四名午後三時終會

○東京生物學會記事 二月廿一日午後第二時ヨリ東京大

學理學部ニ於テ通常會ヲ開ク出席會員十七名幹事前會ノ記事ヲ朗讀シ終テ左ノ演說アリ

龜鼈ノ甲

岩川友太郎君

日本產鳥賊ノ說

客員 河原田盛美君

右終テ故本會々員江沼元五郎君ノ記念資金ニ金五圓ヲ寄附スルコトヲ決議ス

○東京數學物理學會記事 三月七日午後一時ヨリ東京大學理學部ニ會ス出席人員十五名 記錄委員隈本君前會ノ記事ヲ讀ミ本會ノ保認ヲ得「隈本君鈴木圓氏ノ退會ヲ報告ス」東京大學ヨリ學藝志林第九十冊ヲ理學協會ヨリ同會雜誌第十二卷ヲ寄贈アリタリ」北尾君圓壻中ノ壓縮スヘキ流躰ノ運動ヲ講述セラル

○東京植物學會記事 二月廿八日例會ヲ東京大學植物園事務所ニ開ク幹事前會ノ記事ヲ朗讀シ終テ齋田功太郎君ハ Vauclheria, ノ發育說ヲ宮部金吾君ハアケボノサウノ受精并北海道産多瓣花部ノ分布論ヲ大久保三郎君ハ猫ト木天蓼トノ關係ヲ演セラル此日會員ノ出席スルモノ十六名

○東京化學會記事 二月廿一日午後一時ヨリ例場ニ會ス

本日ハ會長事故アリテ欠席サレタレハ織田顯次郎氏之ニ

Unknown number.

未知量

本日ハ會長事故アリテ欠席サレタレハ織田顯次郎氏之ニ代ル「理學協會ヨリ同會雜誌第十一卷及ビ第十二卷ヲ東京數學物理學會ヨリ同會記事卷ノ一ヲ會員河喜多能達氏ヨリ小冊子一冊ヲ本會ヘ寄贈セラレタリ」先キニ化學ト云フ語ヲ舍密學ト改ムルコトニ付總會員ニ其可否ヲ議リタルニ賛成者三十五名アリタレト總會員三分ノ二ニ足ラサレハ之ヲ廢案トス」會員ニアラズト雖會員ノ手ヲ經テ本會ヘ論說ヲ寄送シタルトハ會員ノ論說ト同一視スルコトニ決ス」難波正氏ハ石藤豐太氏及ヒ櫻井錠二氏ノ紹介ヲ以テ本會ニ入會ヲ申込マレタルガ本日出席會員ノ投票ヲ以テ入會ヲ許サレタリ」堀和爲昌氏次亞硝酸鹽生成法ニ就キ演說ス」高山甚太郎氏本邦産天然漆灰ノ說ヲ演說ス」久原躬弦氏岩佐巖氏ノ研究ニ係ハル銀ノ精製法ヲ演說ス」雜誌中久原躬弦氏新元素「イツニユム」ノ說ヲ述ブ」本日出席會員二十名ナリ

套言譯語

東京數學會社譯語會議決

代數上套言(第二)

Algebra.

Known number.

Known quantity.

代數學

既知數

既知量

Unknown number.

Unknown quantity.

Positive number.

Positive quantity.

Negative number.

Negative quantity.

Positive sign (+).

Negative sign (-).

Double or ambiguous sign (±).

Sign of difference (—).

Sign of inequality.

Sign of infinity (∞).

Sign of continuation (.....).

Algebraical symbol.

Algebraical expression.

Simple expression.

Compound expression.

Binomial expression.

Trinomial expression.

Multinomial or Polynomial expression.

Coefficient.

Numerical coefficient,

Literal coefficient..

Like or Similar term.

Unlike term.

Dimension.

Homogeneous dimension.

Degree.

未知量

未知量

正數

正量

負數

負量

正號

負號

複號

差號

不等號

無窮號

連續號

代數記號

代數式

單式

複式

二項式

三項式

多項式

係數

數字係數

文字係數

同類項

異類項

行

同次元

次

Homogeneous expression.	同次式
Positive term.	正項
Negative term.	負項
Factorial.	階乘
Side or Member.	邊或ハ節
Identical equation.	恒方程式
Equation of condition.	
Root (of equation).	根
Simple equation.	一次方程式
Quadratic equation.	二次方程式
Cubic equation.	三次方程式
Pure quadratic equation.	純二次方程式
Affected quadratic equation.	雜二次方程式
Equation which be solved like quadratic.	類似二次方程式
Elimination.	消去法
Formula.	範式
Integral expression.	整式
Impossible or imaginary quantity ($\sqrt{-a}$).	虛數
Rational quantity ($\sqrt{a^2=a}$).	指數
Index.	分指數
Fractional index.	同類不盡根數
Similar surd ($4\sqrt[3]{ab}, 7\sqrt[3]{ab}$).	
Even root.	
Odd.	
Completing square.	
Ratio of greater inequality (4 : 3).	優比
Ratio of lesser inequality (3 : 4).	劣比

Variation.	變數法
Sign of Variation.	變號
Commensurable quantity	可通度數
Incommensurable "	不可通度數
Scale of notation.	紀數法
Common Scale of notation.	常用紀數法
Base or radix of Scale.	紀數根
Binary Scale.	二進紀法
Ternary "	三進紀法
Quaternary Scale.	四進紀法
Radix Fraction.	紀根分數
Local value.	位價
Series.	級數
Finite series.	有限級數
Infinite series.	無限級數
Arithmetical progression.	等差級數
Geometrical progression.	等比級數
First term.	初項
Last "	末項
Common difference.	通差
" ratio.	通比
Extremes.	外項
Means.	內項

驛遞局認可

